





Masayoshi Ozaki
Gunsho ichiran, v. 3

群書一覧卷之三

物語類

二卷

為芝葉七宝為根本其件生長十月則自剖製各於竹内也有多個時間命於神身猶如生酥消融入他即於沒處而上 えかしかりと愛えヤーとなりけるけるうりが赤取しるい 住處便捨多命所務身猶如生酥消融入地即於沒言乃住古音至有三仙人之時彼仙人得法散喜 れてい萬葉集第十六巻る竹取の気力、箇の神女るるところとい それのろてそのかり一〇里神のはなってく一竹の中 引内外典 ふろうと事務経不空三藏譚弘法大師将来 第 り取るかというこのいれかりる女がえく春青一家富さった くちのごうけいてきていめりかるとは、しろっつろ



年至日一世紀 和書部三

字津保物語 村取物語物一二老一八日春以書が附十老末日の他の作者 目まっれのうけおうえるののの日かけっす る大臣大伴宿務御行られがらつれるこの此物語の作者ができる大臣大伴宿務御行られがらつれてしまるの此物語の作者があると 書目は原りとうもれる吸波が は順るありてるがおするのをあいりれ惟遺障字の序入い できるかできる漢書西南東傳一竹村寺一男子なりでありまないではないでは成ぶ覚其身金色三十二相八十種好圓光嚴飾時被三竹皆子源容端ぶき、即於是時代下結跏趺座即入公定至第七日於其子源容端ぶき、即於是時代下結跏趺座即入公定至第七日於其 少迎具夜比高見生御子表那布王されとりようかしら雅とわりいけられて一年州はない古事記垂仁天皇の段了五又事大為朱垂根王之 二十卷三十本

近ふすられがなくすのかける一のほかでして来のかしいのかれいるとりを日まりかかのかめねつけのかれ人の風のりでもよな 書目うかっけいしましれらいちってからうけるすべいかかりすべら 二巻は吸の他しらうかなの真因いろけないとあいてりれる一ついる 此うのずりれずいは氏め後は今の着りるなけられずれころにから なろうい角のえんないとうのは表去りわりりほのかれ、千 かりはからのうするけかしい春日なる方面にこのをのなった うけのをからさせてきのはか何言れるるちのはいけないの日の あていや「梅しいのう」は出上中下 梅八花芝帖 一一和書部三 吹こ二帖上下 方京乃君 ·略 藏いき 明生中樓のり 前方 あのえ 一味十 的秋 一十 为秋 華寺 俊教 流事 れいついる一帖としう一帖

君言一時 からううかはまますくうけずしているから、麻きる す」後落するあるというない 利的やか母真をうむかけるらりの何かけせのなかいためん カ三並ないろう オニナ 國中つえて ふのりそと 湯歌のを 的秋一名十七十八日一名 するいの前今 吃くの下 橋けらのこ からしき 新の宴 方二五 花系君 オ四 あけれるころ春日まして 力十 あてる カナ三流いしろと オカ ふいきト オナ七梅からのト まろうん 吹とのと 小のこのよや

えてしておってくれんごくすがのてようとうちの考しると の一尾はのかく後井の果がけかって物とのしてそかようとき でもしのつているますんなとっているしてするとう こるがオナムオナ七カナヤー梅ならのと下内オナ九オニナーセ きしかよいうののりをなまけてしかれがませてしからのと らきのトハうのかんかうでのとい下下とていめて下、瀬いきの 大がほと回うがほればしてよりくればしまんぞうれかのれい いでの下してあれての表けと下のついてとあやすしのので上とすとは らうのうとしっちくのをけというつうが誤る様がしきけっているの 金ずるいからしたすろすときの格する姿かのけれる りってかりがみられているかくことをとせりってみつ いるとしくれてしるけかいとしてしまなりなりとうしけ トとあれるのとい下下いくていのりてとい中中いとくさめわんいかり かられてしてくるする二十巻かりわりくかけかいる状化の老があい

军 don 一和書部三

住吉物語 1一中内言るくなはのちまっくのむすめまってつるかくすれるいる ととゆの今昔われるのがものあれたろうなるとなっていると でけってのうちいてからしいりるしゃく近きせるこのか ては人の他きてとないしいははのろうとうれつといんかへ 萬後をけてよりのろいっちかとうせるとかりいちのろだり とかくるけりあくとしていいいとうかりなくしゃかいてのは しるいする それってもいあっていたいついろうるとうかり入わからる 二巻らてまか十巻らりは氏めれるのらうした二老のにきの物 何言いれるうるるわれいはまりはりこうとまてのなるとうにきぬけ ほろうないるされていわいてもつようのおするころ 二卷三本

年至了一个己一和書部三

なこけるこけいるははかりからて、一伊教教官のり人ますっせのお信しろうけていたりはようかはからす一時間東方は大人のものがえけりしてはよるとははまたりしょうちょうとの真然あせ 伊勢物語後は伊勢いはりきあるるながいとおってくののいまとりい情は朝臣の寝草はしる有意りしんの構御事と由歌れりでするとうとかってはいいかけるい 其上ははいるしろわめでてつくかはるののまかれててるとうかり るとうかくろうけいろはられるできるすっているしていると ううういいうれかいるるかなりかまろちの松取て一方の はのるがしてつくるようりろうせあいるとくとうしてはなる のれるうしずしの一季うううあいけんしりって何はといる そのましるからなれてあったうけしての~しゅかいかく きしろうちおの一言のかってきかましているとあいる 一人一香書部三

表言一段 ろうなが男かのるとしてとない、萬多かしいりのかなしいせと う今昔かけるこうそのでからいまといめていていていていていているいとうともはるこうとうであるというはなめていていている の水戸はいいかいりとう一年がりとういうしょうけりしされい スありけらる しるれあいないはな百首ようなもち長切っちる いっているとていせとのうろしんいつかうかっていせるいろとしてき でせらているからからからからいっているからい しょううさいかとはるてつりらいるのだっても田田教人の ナーナーナの定家で自業の一本をあるしのあろうして一会事 いたれないいのろとかいはくさるとあがしとしてはいってか いせろいいとしてはなり甲状にゆけていりとのとし いかんというとしてうて電のきられしてはあるしろかれ

2年11日十十二年書部三 さとけてくれんはいれるがらくえらけるのけれるはくありでしてくれがけていない世には田かしろすれるははは大夫長度と 〇大きえ福の中八百で代れまちばりある住道を見るとうとはいまするたるわす定家自華のするけせるなとしいけちのしし 自行来一班あの幻倉入人宗順水が一个名族の武田伊豆人連紹東南林為院庙并下里小八方内府門取次一个户代了其位一起好院の動物了何百六代日奈良院の代子被初自山修理大夫入道徒院の動物了何百六代日奈良院の代子被初自山修理大夫入道徒 道をはらり動けてつかりつけってることを見るやしかかくし 宗長内使うく動け心かり氏観つうけるかりはとき陰らのかる 本用指也可備證本一近代以院使事為端之本去来志代之人今季也 東面已 名部尚書判 〇一年世切賜りる政田かのりい百四代日本了代就彼此有書落事事上古之人強不可事其作者正可說到在言 更不可用之此物語古人之說不同或稱至中将之自書或稱印勢之華 されていかいとかわくいせの場のかかしょうとうしく

君川山山山田 真字伊勢物語 場の後ょうではいるのはなどとう 八十二代村上帝方八皇子ら修宮具平親王中持代の一八八分でろ というというとうともとしても一世のは過しましたいった りあいてかく襲府しれりしてはらのるるといるのあると 殿」らて其ねる氏親の中の名の伊勢はあるりかりしたりかりてん 係かしるませりは書の真体はいるしていれるよのともしていい めいはるいちょうととしれる敵をおのない大りはようの今ます あるく真なるとまりまえらのあからるる素様がもろいるの うれた方大日仲平ちのかりているものいくのなのかくかってい そろお様るなるとうくうあずれるかっきずれる するとうしのかりのからいるのしてましてとなかりい れることのやとうといかときましののはいいろうつけのかのか 二老 方條官衛機

学世二十七一和書部三 たましていかかれてしかうろれちゃのそしめるらはその時にして いうかかれどけるとけらの時代の末連保のけてれなりですんちっているようなはんう他でするんが親もの真子は書なしたするはいかいでする あつずろの大くっちゃなりのうろうとがますしる解す きているというかり、かり、かくろけらりろかくっている せっていれて大る王の白きけこふすがれると手切らってはろうつる まるりけでしているでからすねめてやうのしていえらいわる らずさくを泉を動のゆゆりなりを置しらりずみけたくちしれなけていたりにはいけれのおけくのちょしのれではたけられている りあるのとからかるかと今代すいではれているはしれていなく しきしているとうけんとうけるいはなかりとないとのでうつで いってとろれくのるとしく文をしめいまるのかけるしばから直 もが何とうしてきられてやとんろとうれきもきいなる

うでうべぬくけずはもうようれぞくかのうけるなりているかとうとうとうというできているとうないからいからいましまれるだと とうなるのちょうりのく真なしくとうとうと いているいはなるいろしくはいないとうとういうのはいあれ やけているはくれけることがするれるのでであって かいきとそのしてれぞけているいろうしてのいるから かりてきいのかいかってくちぬるけてきまりろうやっ ら修えはだしていめるあけれてうけ親ものひろとうとってして 何ついかれてかいてくるがいしてさずいつきろきてもんいちく 代のあるとうしていていれまめていかれなったけるあっ でもってくれるうりますとういかましつからはこのい 年至日一七見一本書部三 者据とうかからろうのはないかけせてもちらいにあるかられるとうなっていているとうとからしてはとを観りてきないとないとないままないとはないとうとうというないときないというというないとき うからできるのかりますようとうちぬくといういいれるのでんの ちゃのいろうけいれてからとろんとうれるこの一の一日のののかの うかいっととうのなどうのとうとうとというしまないかけらいあいかけらい てきつられかいとうとあしずしてろもってっれかのあしてる てくううろとのてあるいるようはいまってのはないとうだ とおしよ語のなれるりしいいくつできるいでは、こうころ ますってからり又東が数向きりければれれれるです 高了打艺者 指之血的及後がようよう了いれてより ははしろりかとれゆくてきがかかりのない何のでは多いろ

ちとは校前の下して着かして人のするしかのろうであった すってしていているかとうしているいろういろう このこのうちゃくろういけばなかといかなしらい おつらくですめいちょうのわれるるないなれるたろうちのちょういかいとする 人倫がよりらくせくくれるれたべとくとるやしくしの老室 その今代利下電水下車九月とぬす ようしかきかいなるかられれることうくちあるとうし なのできていますいいろうしていれているからかの 上下海が尚するれんはか多かろはかり うなつつうとしるはずはやのうとう僧さるいっしてかい ていいっとうろとしてはまなかかしちまやしいのしている くらめてことくとしてるかいともすれどはつてからこう

年生了一名書部三 古学すっての一方はいろうくいろういいいいというのう 行うめてよるのですられていたのであるでもっとうけってん ましのうきかんあってもてあすんのこのしのあるとう もつっとうというれていてかくきょうしてからからいかり 月到〇本を宣告え近うららくかかり養ししいいかり直えていい かり十一日かとはとのうちゃけっけんかうていナーローとううからいか 和子はと多葉十一日が十麻里に上りしいけるいうりてかけてむりくなしてもりしくういないからいかいろうしと ろうけっとういったちゃいかろあていますいますしいすべんですの てれてうろくれてすりりずはんとうれてろしてくしらてるとう てみずれしてこいはくちきてついかまっておいくなしていさいえ ならいとうときかりまかったかっちょうける てけせの人のからいできまっているうちからいっていているいろれる るとからうけるがくっける古学者のちゃとスーからのへと

群主日一生 和書部三 伊勢物語抄写本十卷 伊勢物語思見抄 五卷一條兼良公 かっちばのるは、一十つからきまの便しなり、一まないしているとし おもらしてかんのはちかれている信用ブラーナラーの語 く信用ナーラでからようしく 定家でそれずりぬるいろすしろがあずれるかとしてい そく機化やしてやしくそしいすったがってはいのるはいかして それのなせるとうのとけくけんのなってんかのようにはつのろうでうないまいかのできる動な音のは見しらう其外切むすしとのしし はいのきましてくろういろうとれれれますしまたしりの切りろういけをのわけつのきらしてもりず相代の家がしん

外部并指跟军事皇尤西之体道庭比为了相付的役似化一伊勢物語惟清抄写本一卷 舟橋宗尤 伊勢物語殿疑抄 伊勢物語光衛抄不二卷 釋尚柏 作動物語宗社抄 一卷二本 宗祖法師 けお書名宗祖山中記してまるとれるる地にしある州山 いくにすらいく省南あとそう う電文八少る日本城春春五日のからう 四のはいとしから、集なるちろの寛文十二年三月刊的 実銀の書平のは、定家で借かのあるろうのはあれるとで表 のサンナタかの後半平のかけれているとれてきましてが なれるだのはずお日花りあけるう角書のとるとな ~~~いあ何の待ちのなめのでもうあちのうとれて書すし 五卷

上二 一和書部三 宗養紹ですっていてくしけれるりはいしとかしてるとすくけれた恵をはれた見られた大は変は後後後後はははないようないとあるせてちょういろうと 惟はないろうけけし ゆうけれからく 有館不どかってきしてくれいのがなってが過足はは十軒また道道はあると意味すとしたるしているとしてはれる一分ち渡ししているとうとは ろうしもちきるはいれのらえかの内的ろうとちょしいい をして 慶長二年五人の数しる此あるのねとはありてするい は等けはかがあるせけんのではますのくうれのもれてしいる のろうす其ろうすれりやりずやりりべろるの。于時文禄主の中 行る多面風疑慎言其餘多七ら了了人爾是がもうはかい うるしかしきないないかいけれまりはるというかっちょう でをまけていりかしくなけるけのかるる後にしている。

伊勢物語初冠 老士三一时見 伊勢物語難義註写本一卷 のかせいたは、特使のやしくれてうくめにあめらり見るなど けあれるせいらうこうい業平自筆のサニアルをかけられるないとうないかられるのはいからないのはあのはあればられるないとうないとうできるからいまるのにからないとうないとうできるかられるとうないとうないとう らうにつうりあれしてれいは失のかしぬおうするからのと していたりきまるなちろうれかれてよう変をしてる 春十五日これがようものし ふすしてとはのたん業平四代のまるは成章がかけのしとれる れかい時間のようちまくか行きしまむのなるかしいくらいうり 五卷 か藤磐瀬

年上了一个一和書部三 伊勢物語集註 以物語の新社の新良なの思見かねとしめりしく大陸のままるる 中は近見せるてありる胸段がからればしるままるのあっな 度よりかす ころとうとうべんとうからいかりのよういるのかいきませい でくうれたはますまな食味情報感しとりためのまる来なくうれ彼のもしるりとな家はましてりましてありまるまな マミマス相付のいまれらしてしてくているうけいこのとまは 長時人流等は作りく行随昭的つらせくめりかからきあれまは勢がらなくしのけていれる本書院のけのはあれる地蔵して 平が自華のヤノカへおけてのととないり長はが微徳のちち このう金れのかとうちは長はいけるれんようという 十二卷 一華堂切胎

まるまたりたき、一大きいの名が以る教育とりとないます。 四春 沙门努冲 早からって一和書部三 作情が肖角が言古が宗祖が書のに対取機一かというのとうのなる事物語拾穗抄 二巻五本 北村季今 ス二条だい寛でいるたられ作めしれるとういちまったとうで すらしていている了るとうとしこにはけずまのすち今ますい村もですがられる年」作者ちましいのはかしましい向いすい ヤーかっつしつをするようなとのいういを多葉平的にのしてのす 〇寸書日奥書日ふるかっ位松中は以くあですしてい けのめしくるないとういくすけるのううというしている 位よ後したまるのけいとこるたしいくつううれち今集る

がなっきす了了八個川を古の開設おようのかと歌学者流行教物語童子向写本 十三巻 荷田春満を前り童子向写本 十三巻 荷田春満橋自然不らの写本 十三巻 荷田春満 くこし土種組しているのとついうちしょれで元朝からとないってのからいし、みろうかけめ行のとういりつつとを実とすしてかは年れしょかしのからうかは多いからないまないましているのでれるのでれるのでれているに よう土佐日記いるのかの一巻かる葉平のみがしてとこれで ならってうる南最かかいて向されてしいのけ書假は童子の 百二十四日〇多ろうろ本書語職の老とうから其稿中其行人はもとりて みる上巻上十八月らり下巻とせたらとといなりて このとのでする実録なりぬるをしていてあしてていまし うまっているいとうできてきているころろう

等 如 一 亦書部三

君一一日 伊勢物語古意 六卷 賀茂真淵 此書がたましいていているいっちたれのあのちたのすべい してのか 时代のうしょ かられる代のか、古本今かる他者の 代るたうしいとすしてきっつかいがりくしと切りめい する方はつろうはましく海でしいっての書いらつのの いせっかってけれのちょうしくるがってるの業平の時 かりの巻首は経論八菌像があけず あけっちょうのういせる うしからけって 業平紀代の自記なしのす 伊勢のゆのち 向打設けてあけて事代はせり、風をあのようあんろきてもういけ 上でがかり心者のり八葉平の自記伊勢けなしらいのにいると の信とあいれてす一体のあるっていてのうしえらってから の向をよけわけ、のろ及び他者のようっちゃるならのでを最か からうかちまれりらいからかりのはをあけてこうかりをう ~~る冷は他者にかれてきる以下の表示、荷田宿称春満春以

学中から 一十二 和書部三 伊勢物語章南動 勢 語 通写本 等のみううでとくであるとなりますというないとうないとうないで、大はいのあれるとりでははり、一年は人は我り、一条は春人といってはいいのあれるというでははり、一年は人子朋友等のなからか、語、正は、 打一条被窝遇見抄 史中勢語臆断等しよくいいのはれ 市沒 身化自華闻書 玄青阙疑抄 李奏榜建抄 牡丹花节闻 でなるでうれましよめの海れつつしてするちつ 寛政をした 序乃養去山西五位下老來守紀宗直数乃宝暦一少刻す くーであった一老いな成しいりころいうしょのけるかいう むりましいつすのちいめる野村趣志上田松成事けたりの所録 いかけるうくちゃくもうしけってきるはいれてるころ 二巻 八巻 山山春幸

年勢物語傍註 二巻 賀茂季電 一君 一日日 此め行作者のとおはいのかりするからけらかりちの麦とろれれ、ま 者のはもつくなりずらいなる焼春な平の湯を次君しろすのあ他しっていりれれすでくこ百八十餘首はりのかりたがいめよりるやれ 和切け和歌二百七十首此内連钦之首四一中一名回上了一个用 めり高しくろう の八定家でのは自るかいて一字がろす書字やしてあるが ういれら院のほ他でものうろしもすけってはり日中なりくこの かっけいちる立次君しすゆか甲斐のかっくりましてうるの あほとおしける路春のケーとりかんうからつかりころのの した条家のか二条家のかろけらあさころうけりは解のでした とうかれたういいつっとってう安かみひとあす 十九 他うく其ねったからなるはあいまりましていたま人とうといめな次君のらしましましとうたるみのからの数 ていせとのできてるがけるとうや海はりはしいけのけんいくていい のうとうせいまってからあるころはりじしとしてしい そいけー帝澄南ゆみの子林良村集よいいつよれらばのやする そろうあきしるらんのうせれまっといったことではしているって うってなっていますのかけの自然しいせのかのないしょうしょうと けんろうけていわしましまうとろうからいろうろいけてはいる ったいしていめてえんしやいしかとしいれて直説とするした つるちばくるのとううといろとうのおけつっなさいろけってんらさ のいろいちしろかりいこしといってしるい古今年もちてい そうろそ特権の好きをはなっていのけってもうしまましい でしめていいきてはくらけろくれけなりろろしはは慢ない野喜 すせてとのくるとからのかられるわかりしいのは補従るなるとれていりられるとうとうとはいのみてもけられるではないではないのいですのうろれるちょとれて人場を可いまは、作者とすないとい 左府とはいいますとしなりのかいとうとうとうとうとうと をきますがいてのでする今けりてのかしているとうとあるかる あのうかしくりていてきなしまして変あるといる大からか うっていてもなってあつあていていていているかっているものからいは動 る其名目和語しのれる ありれてがあってやすりのな うかしてくけるうれれのほうさもやくろもずらいれてたいえたる うろかきろけらはするけらいろれずこれないまい

半かりして一を書部三 落久保物語 大和物語首書 一八というこれと下と四という作者は吸しくけばらきでするれ 八見信なのうんずら実れは神のなりしていているではよ 作者つすりずりす書籍目録りいる幸堂切らしちちりなお るなっていていているのましってするとれかっている ちのねるればって一般者の放むける一向かっているけるの一向れてもちなって中るとうでしたのからうりがっていていてると すうきういでちてからからかられてるがかできしのとうそっていれ ずるしていうううのは書の起いむしま物きないんひするら をかのおり付うよのし 明暦をひこれられ れてもらってくいないまなれやありしんかようち代意のころい とすってなる人をあめるかちくわったろめけらくはっとかりくやった 四卷六本 立卷

英文と的一旁訓としか小寛政六年とう女子度の戸り、此書真淵識説の華記が信夫其が人引書としてしていた文教人保物語頭書 四卷 加茂真淵 落久保物語思本二卷 君一一世月一 カーーナーつくとくしかけらされまるもてつけくううてっかうしらつ けまい万治二のるがして書籍目録る四ろかしろるかいるの ~~と田村成の下るとう 夏政士の上本 期谷は次一首真がし回しるとのはうの此書の起い中昔のは長地言とするしてなりとのしてのようとのようするではいかかりない くうれるといのがましかけったころのやわからむしてから 思さといの一年的言でやくろとしいまかってかがけましてる面 るけでりがねしるかったっけてろくてるもとすっている きけれるこれでして明月がしてすっくれるとするのしかの うるとれたかいなってるかってかったのでのころはい

手子に一一和書部三 源氏物語 大字行かるたきでしまれたいりは方式がもったしょうなれててまっているのでもあるとしているがあるでもあった大きうのをあること ずあう作すしたかでるってる連夜しくけるがかまするか さらっていなうせうされるれようはまという するしいりなくそれのでとして体まりているとれるのは とやれる那岸脚物のある般着一部六百巻がるのでするく 紙がなるできたけくすけてありのあをなるでありてん めけっかっまるやけていりつかってかかいしょうからけんし なゆしいろういのするらところとは氏が左大臣ふかろして けらうとろいりけらりけるするとの選を内親王村上で中えてうしてよったっ 五十四卷 松木式部

老丁里一里好一 れずいりるようくは名らなってのまてしとっていはなられる しる方面部の名ときなりているというなるないとうというではいっている方面があるからしまってるないとうせんというでは すろうでられてくれゆうれてのこめでわしからしのヤートア うしいあられてきっている一条でのゆめれていることなったへ 書くくうく五十四帖とかしくなってが枝大的言い成るはさせ はいいなあからかるようつく周公旦自居易れいしていんこく であたいろうまないしくすらりの西をない月十五夜の 至的言管丞相のなのりれりくとといりからし其り次夢る

まるなでしてくずしく取主をもりいりすけってくり うのようく其外へ何のけってするかりらてする意思とい 大重とはとすですの相違か何のみる定家でのでは教かっていかくい 電がえるすべとすらして本本部切からりいてものでくる 大意的カナーラーとこしまおいしのいろれいよくなりく それなかからていましのなりいりましるかからからから かいけのれかれて五十二まなりれんう其は宣教は嫁~~~ 動きけいけかれてしまれて五十のもろべしは本部にい意 氏の左尾のりが書うくるあるとろれらからそうははい 日湖ルストリアくかのの人はではいっかくそれぬっているけると 一部がとてく本向のえいすりらうめてれの史神を頂感のたるほ 似着をらずしくうけるない客れるして用いずくずて大殺る

老山下口 の中二条によを通の侵相似了る准丁一〇智人が例でるの八五五八五相生物をのかめ一切を小人之民方面、女际感通のマル五五の のき、何で近れのうとあるんちれるのるいすし周公旦東谷変 うかいこれとう酸酶未進わらけというれずしられて相童のいうかとうくくいかいなれますべきんCybのないありないありないありでは 与兵部でのはあるとしてられてり間なりなく行のかろうを言葉ののあてーハ父うなしてで何のかうををしなくとして何のかったをしなくとして何のかってあるけいすして 罪がくしんでしゃればよいろしんほほのかけてい 了なと地長 先後がく 天世がんのかと 天暦よい ちうをあめ すういきょうすめんよのいかしまるのあるのでなとしてらくれる

年上すっちり和書部ご 春冬での世情的冬の後しく迷れりとれなりからりこであるかいではあかい 朱雀院冷泉院からうちゅうして字を大皇とかりつからか されるな一き~~信が一〇日の保管かったかっているいるかり ひらればりのす文章あるうつかいまるかとかしろ行はつく おけてしきていせるちてうけんなるかり親しいかからは氏 とありの可知後他者の中字治大納言物語し、そうかいいし、教育 書しては数八帝八四代目のいよ十五年のなかれてくのもう人 かほのかける大東とは、字治十れがうつろうしてのであり、うし やけてしてあなったとうはいけのうちにしてういかしている もよりするくろうもてゆくるもとのなりいないはろりょうく しるがかってきるいなをまるいくもうろしせい

君 一日一日 納言朝隆本場は左大臣俊多本子書表無大臣華華後一位題子本八年以《校会既将一一家が一七十八七中二条師何房本冷泉中打五律打事了方人成了自華八中も老个世る代了一丁田老り八 ちと信じてくれてそれとり切さきしかがりいれると あるとうているときのなんとくち相母はあるのとうないととまっているとうとうとうときのなんとくち相母はあるのはないとうないないというないというないというないというないというないというないというないというないというないというないでは、 そうとてあるとれしまるあいしゃういかしくせうあっての内 家のかしてしていの郷巴かしろけの行よかの考えたろうでるで、時日 京極中納言定家本工事去此事かりとの一後かしいことる是面は 出西京大臣少子城本的北欧西沙成寺园白本有新至号西传及京五文中之位後成本 かける表紙やけ歌純のすりかりしゅいけゆうえりは氏の行ばして れている何内かい何内ち大路かはまりいちかいく校会取れて

里山り一小山和書部三 ろつきてかくとふめの内府は盗い、講響するとろしるなるのとうころうとかられた表紙は近しくりいれるない一条経常のとろうま紙定まつのゆかれのりしるようともなっている ゆし飲いはぬいのかいのるといながしれるでしたとうとうとのとのとまるといるできまった事と相重え事物がのる ろうれ中的言定家れて青春紙しま丁字祖をくの縁引から 了外部方青夜低山定家の方台書と面四代日本時心意意 豪きと定家の青表低以風防みのするくったせうない後やから ていあれているとうからくなれてのないましたするはとうい 書たしていくその本居宣長学文要領すら何内から表紙 らくしくうくこれが考りしからちの表別かしまって今世と うく式の外がなけんやうちしなうほ氏の外がとかせる 付いい青春後のしというずけくからうなはくこのひょうり

2年生 一大書部三 のるいっちいっとろかれぞうとうしちませてからんしいと そのこけは氏のこのううの差よりていれてもっていろう るかがかめろうくろいろけるとめててんのつしないない そしくとうののもれのやしらていかししょうこのでありまる かりきしめるついったいちくちんできさかからるろう せりかりいりんいらうちゅうしてるなきのできてから さいろうしくろうなけんすんき みををはていられたいは きはのううかしているこうとかしろうないかられる ろう更いましていくてくりとされくしのろれのによっついう ってんのからしよのすいながつくろうでは舟のや君のかり けらうわらるるかりるのとのでる字名のみれむてめても いたてうかあしてうけいつけありゃしことしたにつくっち は氏するのでしまする人人をのるいっというでもからいたてきつ うろいしてようしけるれりとみかしるいつらりてき

うけくのほうかるな書を古に下るせるの便りかられるであっているとき古けるの意はよるなな書しりり人因的のならう 該樣河內守親行讀之至一又馬九光雄了於三原氏一部的河名盤四十三名建長人手十二月十八日无成於都所光原氏物語事有都 からいけまるまでのり向りのとのいくは氏しているとれ 力では、ころのうなりかではあしめてることによりく 中島丸なの作せるり一個氏いずくうけはししゅろられていく さいう他でとてりんん夫のうでしいないのからうる それ物はきしいつん人ははますれるのかにくてるす すちのれるあでうればそのずういもつがってきょうのですらし 人う人やからかけんりしてかれたってるけんころう

半日ヨーケー一和書部三 さい巻 十四老 十二卷 养二 并一 薄雲 繪合 常夏 屋 门上 上に るいなれるか はのかりいとうねるで 或いあろとう 限がいていばるよう り上 級のかし 的似名的 十三卷 松風 服のかりいくすときっちり 今かろうち 解けていていれるよう すねる。す しいてそとわしてあるう くていれるよう 十七老三王整要 十五老 养五 并三 新火 内上 れ世里 女はろったう 上上 子かろよう そうわられるす 今上的上級名が からかりかって

里中の一大し一和書部三 あられてるとくてしてもろくとうつのうがうらっついい サ小老 手習 わそろす 世卷 停舟 门上 我一紅梅というかし、我二 け川 様のかりいせきを 白宮 かからすぬいる兵部つして人 薫すりしく 引かいかねるのが物きとうちしいうれるようしくち の名んともわしてしていてくりいちかのいとせかいるの 世一卷 早敬 门上 せ九巻 推本 うなろす なっていましたいれるのすとすかって けはおうつうるるの巻のからでもしりしんるかっちょう そうかとてくしてのからてきのはれしつけろうのこの 或八名自鳥 他しちからいろす 州七巻 英子橋 れるとうま サニ老 己十春 サ五巻 サ三老 你年 うりかろす 竹川様のかりいくまい 特やすり伝えず 事生 うかろう

領兵物語嵯峨本山九 君一一里 しいかけめかのやよえるねつようくうけるらしいと 会言い うて大なが奉くいけれらりょうとが大きのうすをはならてあ けからいるのまろり年行のいけるのがえようしたから るのはなのをうりすってが字はいれしらいっかったは氏のたうれ 的上八人一个多路南代妆房 等二色情人 そりけてのちかと更利の記しるあはい五十餘ちしつフカーンナ 角藏氏藏板すーくかりいえんのうて料紙いるがりく表紙は 〇於若およ孫氏切門因為外至うり明石の次は南けい東屋のな 次 なのをろくかけてくる巻をアー〇五十四帖のちろろがのをよう けるは成の角蔵すりあるはぬからしい角蔵でと称了今 うっているないとかってくれているなのうにく たとういうろう 五十四卷

年十二八二和書部三 係氏物語繪入 紫明抄写本 ないろうちのきぬらくあはからりょううせまるんらってきとし からえるはむけいってあるしせつけていくかろうからのと 内言三十二者乱動はるけるよる連切るよう 題んで引我なくろよ 一卷目安一名八下二卷引致一卷切了着菜の卷回子り一多 度ないは山本二即名は春ふけめずるはなっともうりしと すりさーを収むりのはぬかいけかし記せらの後を伊きたれ て全部とて巻しせりの此中のかり半切かかもようとのとる 此春からはすのろしくらじけってはあれる一季もい事 でかつけまはないとうのうながいきてもしいうめしい っ十巻 十二卷 素家法師

君言一里 ける前いをはらしまのようよかろうしているとうろうないとう へきないとからからかはのけばれりとんりするという ふらのはなるくちと作トラーツしまれおとなりくうなう 大きなわるうらんは親もうら内す親のかいままれのとういうらい つ人明親をが国ふっとい下しての軍る相がめて国ふのです がし、きりかしとうかの原氏大国ろとしるるるのようふかい さのとなっましいれていなくしんじめるこれなるらうかつけ てる明かしてもうちのろしくのあなるといってものあめいうう いてんそうすめていうらいかりめいかっしいは かうかしとかからてうむしてあるころのいろろうろう いうらまんでやううすれんかいかのむとのしは らくてくくかのめのってあるでは、かくてあくらかん 二十卷四上善成公

年十二 赤雪暗三 ま物しけくくうる惟老良はかははちまっているころうとうというないとうとうというとうというとうというとうというというというといるの うちとうがしていてくれるからいからいろうして かとうめる土地が海程でしてあるうるとのないかっているというでくる東集がしてしてのかからろうと のはのないなめてれるかのだりなりしたまするいは のとうけっていていているはいるのははいいののないとのない 大けるはないましい向いななるよれてものう」のく物は 出めえりまれてけれがしくいふかしますようらうしいい かりろいりま中的言定家いをしかるがりり乗へしるづけ大 かまるいろまるけてもせいけてあるいましてもしてもってきるうで 此物語一部のにし自なしるえる氏的語の意外へいあるというとなって

老言一思 老弟二十五人臭っていれてかれていますがあるからいわっているよう 巻芽一科はのは老しいわけの起すのかはいのりをは氏めれて さいうれい考成公けはえり一个惟名良情二人の名がしくなれるの以書をあるのろうのよび立住上物語博士的惟良撰しると もするとうとうあつめくころをしていたうけいらはありら からしゃあなっとがんのはなってからなきがっていての すくでえんな民民君のもてくれたいいたりしくと つくるけられぬしのそがいろいくというれてのあののる ちている 式都の付めけがしてろしのかとうしける 板重の巻うかまうしてり 後去雖此器依若城自基重家此一本那个相传也面小为给 以上水和東五至本春四日書写了るれる水和五日之月十四日ある

学生三一公一和書部三 くなべかしてけるるととくのそれくすれているいろうというというという かしましいないよめれてまれてよりかいははおう方一ろ かっしいできていてうおしてるはあやましなしけたとりかしくすし つて根源と考っすいしてはいまかいは一書のしなりすったとのおいいれれないとはできくのもとまつりかだいかとして へるる事事の付いるのうですり日か紀万葉からるうしいりれているの男からありありかめの大部かい行為ろのぬれること時記のれる 六自仲春頃今至五冬頃自重是一華 記不可出私福者也 師阿 此一句即以又如文正之年文明十七日北書写の與書あて まてもろけんいかいもれてういせてるちょうの~~~

半まう、より、和書部三 は足るですめたいといいいのであまればなってもしますいる これ校一一相違のとなかいのしろううなないるにのうまなれないとうしてるでしまっているとなれるすると定家で自然のれて おけるをは中最初のこれの中古人の解釋よっとくいめくられるいろうないとうとうしていなる十年を変 海がうるとくさてもころうとうかとつゆくうりけってや うのあれてなれらうなできているろうくるまれんのかいめ てたけていいともはあかってかれまったとしくの歌しもありと してアイからつうからつうからうしておいているができるからいっていると そしたきかつきしていてありているしまるをはか何以 今ろれるなるしますものかっとのみればしめのうとけらすりのれ からくらいはきてる個人なすれるはましろかし文字あの いるうううかによう漢字ういまかんうちてつしようとうとうと ものなしているできて食れたしれるしているのつつでと

手をうっかし一种重日部三 そのける連声というしてス内曲のけいしている声明の音便と りずるりこうとろが信がは音楽しからいっているというとうと 声うかですべるようかけらでは文字うけかはうかってい かんはりしまってきるあなる文字はいいのしているがっと いってくしめけれるないちますりようとうよいいてもできるとうう できたがよしてつてのうとくのかがいりというからう神で ソハイー音してするしますけないつきの第一つでてすと きのこうでくっとてきていてもこれてもろけていめいるの マが定家っとれるのもはのるでをのきかりとうあくうち い破のは平声できれ破りいしぬとうからいかりままり こ似っつりとも青る通じるのでのでしていいねとうとく けれているなけんがうとするのときのるとなって

では、一次のは、一次ののとこれですがあるというないというというというないが、 一つからい 一つからい 一つからい 一つからい 一つからい ここれでは、 これがあるというないのでは、 これがあるというない あきてくけつの南かりくたちの大的言とけく又素代の人かのまいであしるたちを報ではた明親耕ましますまから からってているというからはあるなけるというないというというないというからいまするというからはあのみときいうというないといっているというできまするというないというないというないというないというないという 数のんななりくめをあときやしれてしまゆる うらうはていて部の大きりしようちうるからの此まれいなか 意部あらくつのくう人 春まかえ内はり 女内 更衣等ける目のは がたかいはのまる問題けるとて動しのているかですいろうるい いろけるのとありなるであてろちのかれてきってうり シキトントントか書部三 源氏物語系圖字本一卷 源氏物語系圖 其次は係氏れたののとようの人與書る文此一冊依挂就主不見」 岩屋 からない 化吉 傷机 こまの 唐葉子 かられる 格人 教守 八格 了一个 花見 嵯峨野の上下 扮頭書等る附す 勝定院殿義持公村で老人進るすりりに記す 系周の一枚ちーノーかからするの間録なーの道道院実施なの 好多了原氏君董大将事件事務了了其次不精力納言作如考了 な人門別しちースてんけくすら、何ちずり 時録るをうたった 以家书公書三子者也天文十九日八月日都在宋史列〇时刊中八湖日 あた一部の中るとしてくいる風し奥へ系図よりしずんしらデ

源氏物語表白 君言一段一 氏物語表白 一卷 安居法印聖第一一人不知也恭不敬的所付的真好的系图表行余的第一人之一人 必然があったろうゆうないかしてける他してしてきつけらうるの くうけてかが実隆公の柳路しれずつくけなりたきまいらりする人 さていたいとけいろふむけいるあや的言葉個のないろうういろ かられかいまいうしい五十餘れのちちちつというといりまれと 轉音であるやすりろうくけけけらのいううこううっているかっとはは ~しいあつけんでものるとやりはしけっかっしつおすしいる国」で 致了る四系圖以色条影内大臣実隆の対化了人行心以乃物情之了人 青陽は三月はこれはちしてりぬのみからでの五月十二日代者るかの うれいけいはすらうれず氏後かしょううすむなってい 改了るを原氏の治系圖」りてきのできれれるできばんのきしつし ともかりはできているととうし人」はちゃくろいけるとうころし つからってきにすりしてとかれるとすべい

轉活輪のほとしてそれがしていろう人人が安養海科というにおいる大きのはまりはあるというとれる特語のはやりはいいというとなる時語のはやりはいいといいとまる大きないというとなるというによっているというというと 大的言宗家 して結縁経供養しいりいるる薬草町品がとういとうたち そうないとうあいく一日できく供養しからきったま つきかかいとうといはしたしままるがいからないとうないとうないとうないがいはくるすらいとうまないがいはこれはくるられのけとうできないがいはいかけまります うんうのからつううかで家とは集かしたうかろうなとれて 氏るればはですとう一日にしているうろうしてくれのからえてる けいあめよくれるやのとんむかりとうかしてあるいやりと . . 一切重日彩二

源氏物語千鳥抄写本二悉 郡書 覧 近しる古里の像同三司光源氏のあればあるれいりかく至徳 遊信のかけらりるほうかてあるころのではすしくあしたしい ゲーは氏のあたのろれ具してかっていいいのついがきでよ ちらのうろはなれずいするつれないるとまからっていて 男やってうけられてきっちんずりしてやろれけらなかれす信意も こいっとある時間一人大きのうって人のあるへいとう けいや一篇、表白ハイーは対つ、そうやの雅書が按するないと とからいいいいまると例月がり内刻せる くくくとせいうちっていなっていれずつしりいりかないうやし 1875 くりんつりょ うなあとなんかとしいけつかとできまでかりるしごうないりから 在の今われるらんの方とうけられるからそのうけのやりからえいけ 村のいるまとくべてもころいうかもありってつつつろれん

花与餘情写本二十卷一條幕良公 第一十二十十年書部三 きかき自地会はいる 本かりないないるのとんやする よがいうのではまれるないなないはいてるないなってあれてられてくれてれるやまはまはななりはなることのなしいまかられる できるくかられば近住る南のなりとうくせれている 河海あのらやすかりいととといるとうですがあるい 震震のからるようかいとうけいたのはいせかしろうても後午

あだけっくむっているのちあれるとすかっとそうかしる至宝のお ったでる表化しいる風入っかの方がないしているではあるののはからして表だと海辺するかれた青表紙よい相差のできる 家いたけれまちくうしく雪雪の切れつかくというかりれれから かりのはお自存は、そくねめの至宝のほれるはるとういからべー これですくせてけってあるいとのありくれるのはからしてし 河内でる近ろし水南へは光一他した多餘情は成去了為良公の他はあ けはおいて一个できてくはきなさとうすりかりとが中のむ

をおよ文明のは除り上常れるみせせてるなりのこれもれているかってんる食はしいろのうしとうかりの養育は作意のゆうとはせのしたしかったろうないというというないます きったいろいあやまれないとうかいと達のしきごうかってんと それいて精南の人だろうちろうあまでるのはすれている しからかう妻として行のねるまりしちくて、せれずりもっあっ

考するはは、日本をはる事子にするはまませいのようをいる。 これのは、おいますとう これのは、これのではきのりとうとう 无自餘情異本写本 二十卷 年也 一个一个 文庫為白浪奪取畢爱住十年不愿感得之之,水正七載都夏氏物行丰之一冊者故後定阁下斯繁作也件的本應仁太礼於桃坊〇以書日清抄年曆の相多似子十八年之入不成己〇夏重日之日又以下董の年之一人人人人人人人人人人人人人 素意なの別子し出るなにものな南都しく若されてくることか 下悉梅找卷了一直本机卷海氏五三年 董五年了了了人工上悉 相重卷了 真本机卷了了 ほんこれな 明星初して名う餘情雨からうつはまりるをカーすいを自餘情異本写する十二十巻同上 中古前博陸東自成恩寺殿作息像殿冬良公地〇一中奥書言之

一本"二十一日 源語 秘訣写本 源氏和秘抄写本 阿童意 ほよい服有せのす 多題表 お名のナけのすいまいる氏わたの大の十五箇條があかくとのがはせり其体で 一条殿的初心者一門作也 宝花之母相同發图の個名の数らその妻子と右一般者前国白相國 おはいゆる一ついういでのうちいとおからのなのではせてい 第四日日本の書湖内抄書る附刻十二十五者思見四代妻祖後成型寺禅阁之述作也多 桃花京葉生年子 葵老 同卷 明石巻 大わりれるよう そういろうう ころくかからのる すっからのす 一卷 神老 同卷 花真巻をからいちかめるり 王髪巻んろのくずりてる 薄雪巻 くるれれてらいいろう 同上 しのかのつろれる ちのとろういろのつ

京本別は写本 一卷 同上 事為物学和夜談初~り 羊山の一名書部三 ではれるあおのかよる審めると何には経過へとでしていれる。おは、写本 一巻 宗祖法師 かわるかられていていているれの作かりも見るし 老品氏年次 遊り相重意了 五十二年初のですとしる意力の事 何海が花鳥館情等のらやすれたして別るなってる 同本のろし 初音巻 多中よのり 藤夏葉巻はいろどろれるの 七卷十一本牡丹花月拍 蝴蝶巻 いけるいのか

細流物写本 手から一名書部三 うれてはったりくうなでいまとおいりしてないというはっとうないというないというないというないというはいてない ではいいかいいっちん の試るうして耕せでいれるのまるかくすってきないとのでして、大部のまはして、れらいやままの家は座覧を抜けてくることではいまいった。清表紙というではな別のから新さるいとのうと いるとは流わる発端一をおくりてしてうしょうないはいて 殿作よりくた事がくさらしかのりる神雲やののが切めけるけ 京端 は 諸中不同のるらでく にぬかりとなくようらりは外勝定院 存以的說宗祖禅師弄花諸抄等之偏之之、明應し卯孟春仲ひ 河一種一摘和かい二字がちもりの奥書するたけ立冊成ら 二十卷 西三条公條公 五十五卷中本西三条实後公

至 如書部三 講談が聴させるけんがれる餘情の意趣あたろうらい地當るようなは深紫ととがしるがしとしの自治というとうなれたたの 生利のおでよれちのなだりつり村をかたってついけれりか あわらうとよけれるなのか

老書一覧 ため、おしかけらくかくすめけのまったかのきますとうとうとうないかられていかしているとからないからいまるはしてははようないかでするかのはいからないまるはしているはらいからないからなっているとうないからない かられたのとしめと銀行くているでありますこのは者をいっていたりれたのとしかと銀行くていることではころがかん気は の外ではる場の大個と機構しく二十天のおしてうしているとは、一く一、奥をは該はしし数十日工大が費しているとうなるとなったのは難とけられているではないるにはないというではあるのは難とけられているではない のは意意首の诸や不同ちのりならしたおす真なのはってれるいとうとうまはおしかいろうとうまはおしかいろうしとうな オのてういできい仙街もないですのたけ一部は一十一つ日 ~~ かっというとして初秋里前着酸八十五年間的初起事しる 五十四卷二十六本 林二六二

次氏紹巴抄二十巻 けおらはしていたろんなうけってを看していかでしかのを見 原来朝の人林和靖の衛了一人相鳴」のである。本の夢思い自書宗二方三齊之抄更以不可有外見言、〇牡丹花前都是與自書宗二方三齊之抄更以不可有外見言、〇牡丹花前都是與自書宗二方三齊之抄更以不可有外見言、〇牡丹花前都上歌車を育し物語の發起の中古来称美の少女子一は我です。 いをサー節するしのおする林地がい林地かのほし見るがすが かな病名いると林込むして又前角集が様子林込む世一般 製す的以人業一十二三連教及以敬書於好了係氏型行の 優にと製造するれな良優ののころのはよみはニーの人経路と てれりますり日かるちく好なはれし込めある南都は行しく

君山田田 体衛物等本 名の氏二十をわとう 限清表紙河内守備面外也佐城之父子一下打了天之一〇一書一 行定家では自華の青春紙中的新他のやりかりしついけるでえ 建のりしたとうとうのとはかるのとうなる中でのたりったがましているはれるのののはあるというはれるのののはあいまするとはあるのののは るとしま明心ふるかよう今我ろうしけぬがの生他らうとう りませり新愛河内やは信じくろうでとるとはないとうしてと 我名院及右府道建院及時二男道建院在しているかけるって大 しているない中のつとるい過途にんていつかられるとう 一条禅衛のゆるへうそめくとまる名内府道送的一講釋中了 ちを見しついくいちいかされる表紙けたしてはお不審と 餘情又同しうこう私定家ののゆかのゆんがゆうしくからくれて 里村昌休

通信のおはるなりしありいの著述了~~定家での奥入内は、江入楚字本 五十五巻中院通勝卿 花屋抄等本 連般的里村昌休の次書も唱体小場心の及し ちりめるりいふけいれるるれもははきのでしてらえための 作者でいっかりす書でいるれれかりいりいろうの公 こけ書からのはのはりによしてもったのとのする こと野見一時見しいでのするしのうけらうしょしていのとしてする りおいつけけしるまかれてあっけったちわしりても おうれらくかっちのわめでうかれてきんればるしてくても きしかろうかっかいちのかめるでしているこれはとうしつかけると ううるようなとされくれちるとすせあってしてのかん してければかるりはんろうとのしれりないして人

隐随和丹之後州老人也推姓不行才識高明第一時名流也出齊真子の然了る也是軒主素然老人以有識前之素遊過 も何をもうらのはいくててくろけられてくろけぬる きてけれるれるところれる男かしからけらしと強魄し ううらすのあめないかずっとうだらういあるでするのけれ 海波のひょうかりれかまれます」では秋すりりてると日 ーてせてけるでしかけるしのはれるけくううでしていれて いっくないからういけも行のお出を家ではかいありはいいなと が一次のようしあけいつうくくというしてしているれていると あの府君を古けてりいるけれるてあるよる念にかりもっ できれかの九日也とのなりとしてきてというとしているののようしくはつの自然という其序のかとしませらいろしん

半十二 一和書部三 三年度実際公園業の園書かり表首とならのりといっている大きのはないというなります。大きのはないというなりましたらしているのはないというないはいからいるというないというないというできましたらしているという みるなどれないというでし風によれなどだってのいっていてのではいます。風をはいれていてきまれかいられなんなしてもし 十五的可謂集大成也余乃題以此江入楚矣之八〇山書本文者公缺者在五有得失者而存之十於之旬雪等家孙里五人來早年素賴於是老人忽感其志考之諸北等者改此如稱親養之名內府動侍講惟完此物語之與古依之就老明稱親養之之內府動侍講惟完此物語之與古依之就老明稱親養 ちていていているけれるおけるのはちょうというという の行五十里老宝隐蔵一奉代尚了诸がる十一分一大和了了 もさいしてかのはいやくしくのけれいきすしいにしてるが いしている大大大大大のなってうれい文章がというとき世俗であ ~~~ 料紙半町十らかっちつりて後まかしての人は言う竹内

原氏物語一部連歌可用詞 一卷写本切的の光行 君言一眼 自序とるもほとけあけるすれるというとういうとうなる。氏網目 九巻 同上 野神物院里とれが難録すの巻首は作者のる発動のの氏個日といまけるときれているでは、大個日といまけるときはいいまではいるのは、 てきたしてもないとうされの行とのせらかいれるようなこれが いかはらずきてくれるといのけらうかくけるしれあやまいが減らずきてくる連絡る用いていてないないなくとくけりは そうできるてしてのはなりずましますといいはしくろれてするできているというというできる きでい部の大概なうと要け倒るうだとしかわぞかかけりほ らでくろうないろうけんうちとくなっちょうけやのす 甲いたの大小すりくうりょうに多く

そでででするが様様すける。将者であります。それでするないはないというできまするないでするとなっていまする。 源氏物語目字七卷三本 源氏大概抄 源氏物語引歌 一卷 一部の大意がらしてからいるうの者アいてかかっす これいる氏の行為の中の行からはっとする所到す 棋者にすいりかりすな治一部の中とり連就りもゆうちの からむせり うれるとれはのちる古歌がしりあいずれるうけしなり らずかららして書くとかべいかしてるしてのもううくらう おすしの真書うるいらかられるなられたいろういとのもら

老当中一里人 かっとうしすでくろれんしてスーラてみけゆうのれのわけ 物とるようけたのからははいるころかろうるころう ちちょういろれてくれてぬえせしかしるとけつとい うちはなとのして本ないとかでいまっている 行はあるもとうり飲かれるのとろうのりつうりつくるの のかいるようれていちのあれるるもでかられてもってる あおよりもうまれるとだっかいしまするりろうろけら 句のころがこめからってが引きていいくろのでいれってい かが利きてすてるれるの気がらめあいろれるのついるの けつれいけの中春宣長るむはのわからる古きていた」一句 ゆうかしてういきできるいっている大ちのうとしてい うれているとかしきるれてるのとうならいきっといめの うり被击動しとうれていっかってのわしてもしれるもれる まかりはるいろはらろういしたうしょうれかるかんと

年十二一十一和書部三 の持ていかありするからず数かかちょうあがす いっれらくろうりてではっきでかりるのは引くけん 大意かり古来をためるというとののとのは書くしいは 此書河海花名事な田底等の野事からりのと有略せ 水一番二十八卷六十二本能登水南 答家のは家ないもりとでかりくくしられまなっただっていまし られての一方となってけおられてしましているかりい 今でけてう作者水南い月村町高頭のある」く連然え 131~日初信作者のかあ活然作者のおかかっては次のか 應える土月の見たの致えてりの教育とほ氏物時風書 考けるける行所は氏と考する 原氏性とぬこう 五十四的 するろうだけ事の二十つるととくせいあしなしてこう そろのう四端はりのり四りはたのか、三衛のシアンがと

777 日野 源氏雲隐 山路乃露 石山寺任佑大僧都信養又公石山寺春花歌夢多了人以京母城了菩薩一松中當寺七年物中 惠和名次成唐山月日室隱江冊名ほ氏西德全部者也是我都然高望於一些的丁 在や小や等は附刻す お伝のはてるけなくしのをのかっな書つずるのうくでろうち な徐りははあるの宝藏るなんずらしまるうてえたでえ 并五 やりもー ゆかるいといいけてれて二条家人もりてものころさ ろうく見るのおばりでくりかしのねでりはちからをした 美宇 はのの 以上六春しの学書方六巻の奥書りる 寺四 ひそうと 并二 7

かの上巻とのようのうならとかけを十二月時のよれていくけをしたったのまでのでしているとないとうないとうないとうないとうないできょうないとうないでは、一くなりにしているがしているがしているがっているが、 手上り一大小本書部三 こう了了意かったかありればられてあれてからないるないはないるないとをとすけるともれれた風空間の り、きっやせとりきかいまれかんだいつきてるのででってくから く事もうといれというようれるとしずうしいいけばなし 八ちしらとまする花としてしていくいくとしさらいに のをいうけいる月一日うかってもしかちしを隐のな 事守しらとからかろすり あく はのめ いろうて らいけき或はいかりとして一九之 現めゆ

群書一覧和書部三 源氏外傳写本 させるいしてからできてきてもうけんかとてやけるいとうした なーく其中なってのとあのあれるちいなくとしてもし 人すれけられせるいすかりってもついまりからる かくとうさるけとうとうないからっていかって 必言のからいほの切けれますなとけして 物しつしてままいなるの 老るながってくくくなっていまする するこの官は野鹿のサガーうとくのかくりからろれ方地はの 大臣野里大臣曾兵部で書の東其外する人けと本でよるいという はとんず物ありるうけらしてようしろれくりしく ゆうけずし るかられるけるせれままかりかけると代のあるれいろうくはる 五卷 鼓澤了芥

まかしるとろしれのりししていまかまくいやりぬうろうちんとけるのうのしれのりししていかっまのかしく優り神 ろうちゃうへおるほ氏の君とは好きの人れるかはるとうしいと 海ヤートらくしかのとは周の寓言る数しくっれたらいい サカートから一であるいくのはいけるとうかって国史いてってあけているかであるかはのはられてののようではののか てきているでしていまいしれ露出りるししんの人の人 のろけるなかけんのうのやしといもろうつのもれやさしのるしか 損多人一為十一九一大日本王道長久力一中八禮樂文章下失 くなつけてますけるかろしていかちっているこう いてそのからなっていかる温むのすれるしているの無意 いすしているかられいていているれかるまなりてきころう

手上 はなってふりのとかしすではくかって風化をかっていけましているというかしているというというというというというというというといっというというというというというというというというというというというというという さかり故る管鉄のらういかちしずれてと為の風俗でしてた情る らてりてすがしとうするがくしたははまってしるとしめく すくと下の人いのはなとでありましているはれいう。婦人のと かされまっちょうけんさうしとろいうできれるのうとってもい そろうでもんや、みなる順社院もはあれれて日本のない なんのうろうしさかくけあううかしていうてきまるの言の わせんようてはうなりを明君の真でたすとなるではいしい かしめしか何はというなと初めとありている ~かつかきへくかったでてい風いすって家とのですっている 次り書中人情がいてくつかりし人はなとうかで上倫の化と 子生ョーケラー和書記 一十二のし ひろしりけっちとえたのうほのりしめにんりし みる けっしるとのはしていすっていちから者人のほしいんなどのはい トラーの發端係目 けめ何化者のり 東南部系图をは大阪裏者がはあの下る愚意の了前のはかりすしとういるましたり るでしていたしまれるるるはははいいろうかするれる 了るかれんの子けるころし みとまるはかりあへうそそて 明をかいういきけしとろのはおりこうかうかりはまかくて ていある。ははあ津かあおかりしているるろの要なくうまと 语の奏を放きとめて、なれ条の大衛幸家公のはからくれている けられる過越れい九条の東北院の思していかてかりていける 这下ろれかりししつや其故る此講教人因為ないくりして かり、海馬院殿三元院向了相のろうへかから代けずらする講物を一次のはれればすてはあけのいけるななーろうしは如養老人 いくろられてみの子が画律が城に入せて水一病はおかり 年"四十一里 大意的性性的的行行的形態的作性他的时代的加大大意的性性的一个大多多多大多大了中南部廣才の中的行的奏起文代 佛もろうまするいろうすくりというないやまともくのそう ~一其は本光的回信のとけばむるのはれてしているかしき あやすりもいとろい語のなかというというでありとうてあい たろうからずまして一日のかいうかってれているれてのものでたり やされてくろとそとさくもれるりいがあってきていまくから る も代冊我のの 巻き次文 衛中不同 清初 ん例 くさかってあるてあられるそれる餘情ではいるのは 老しかえる けめできのをうるのかからことのののから やお宣長とは我いけるあるまつのそのかってきりつきしい 确外のの記号をふくむけり確すり あますのか はれれの

年十二十一和書部三 あ春八季やの男かりのなよいいのでれが十帳ほれていのちゃて すべんべつらしさましくうまあかりしてきろし て脚春のたねるくのとうなりは愈しったとの書がよりしく マートーというのはようけってのなとろうしているはって れてもつい間目がしけるけかいてきているくのおして致あま もしかしずりしたすくしつろれのしは中る今世中るのま 物しれるとう一部の熱意が後げかいませてるよう 表でのよううできるとうはあり、もろうううつけくと のられゆしかしょちゃくうからいけられるとはしのからかって はあってけ大きかとうせれていいからっことできんしなるめらてるけん れるいかなってやしまっちっといろかいかいまくさし こくてくのないかくりとしていけあましてからなららかかとう

源註拾遺写本 れる肌係氏 十格漁氏 老 当上一里 けとうそうのみなりのがはかとううく見かのから再ちてつるするとうはは ないっつうう五面のはらと は氏が行一部のはんいりずるかしるれのにではするい くしてはまりめいかりてきるはあるだってもするな ふったがすってくれる自身はつ寛文十の刻 ちーとのようであつけるかのあのまる切春のすころう かかくううけれた大根がのれい様群かしく再ちくすると ろれいりつよ りというべきするのできるのとれめつきょりかりゃは ~卷 岁冲何周梨

また! 一和書部三 ~うく今まけたのほと通鑑い家英宗治平とすうとなるすれるとうおうによの寝見いないと との文教司あおいのかりかくとうはかいつと 勝不用らりかいないかかり みるさかる台家の代表化けのあたのかれるのはできてきてい おあの作あけんはからかりるといすいはれまるけれているのとはないなのかのないまかられるいろのといすいはれまりあまったのかけれれ いろうした過しるづけて変勢をうりははからちゃと はっけるよの日記してきわけると長分らり五十餘ちの中しい かりしいいろうれので其餘被をうけるからいからいからい まっているからけるとのよけのけばられてん更料日記としる りあるからうろうてもないりまりりくやしいているもれる実施 あしていうのできずかり物からいもろうけんではあるとはなる うりもはれてもしてきかしするとろうのすりらり

此系女七論写本 老言三里 : いて中七海ハ、才徳勇備 七事共風 冬時等の篇い后她のは代ねま一動作のけい注放がつきしる ろしけらるを無能をうとうりけっかりるなりているだろう 中に西相通るつのけはかけれてうれるけるえるはいかし 大輔冬仲的我的海後初了七路定的的我的才多柳街共了中的 生伏見殿自致親王の時館よけり一日くの切りなくのすりてする でからではのなけられい太布りが太由しりなりいとの法 おわき通の假名によきりくありかあるあるとはいれて で定家の云可然初む言葉しのいしかり一ろろりあい 通おどのゆろてみよれけぬらればまるのはつてり後にがいくい にいる古人まなのゆく 四十九

手上り「かり」一和書部三 ちゃくろの日本のかられりますのうしろれる神し情感とらいますのできいかりてしなられていてるないないでのをあれてしなられていでのをがくりらいではれるは記されてしなられていてのを描記な経記されては主要明月記つ下近きせけ二水にかれていたを推記な経記されては主要明月記つ下近きせけ二水にかれていた けるがうけばるかくかまの符をしてるからまってからから間割のかしてかておいるのな事が付きなしてかった らしていっけばるかろうのかる ありょなかりてくらうろいろうかくのるかにはっせ 起こからのかれてようでからうけのきかりをはためのかっとうとうないからいっていまるいからいまはれるない よりつちというをねようのをいのりくの次とあるはしいして らんがいとうかでもまれてしまる語しく本部正記いる かってとれゆうゆしてののちれいましむろうのま

君一日月 ちがはちていくろく けがあすくれるおが美才切のしおしてうけまでかっていやすととうころうなかったれからしていっていいましていると オ徳してようなすりい大夫すりしてているとうでして ちつな湯しく本都ですたからっていまいあけのはおくらしていたとう 海地の強いうとれいうとでくりも月前のみなのとうとくい 言いたしたころりくいりす徳春はのなめしきのを いるからのであっているとうからいますっている とれいける帰松校会すーりけぬのまりろうの人香竹は住 これとは何のやろっらしてれてて文都があるものとうってあ そのうくものとるなるのちし其本文のもしめるとなりとう るとうしまってうの代がしないいまのくとすうりり いるれたらいからいるのかっちるかせつしのう

原氏学故学本 田太子 天地時候人倫之體生樹 氣形服食器財人事 愚詞等のの次等了からく何はとくとうりからからいるはまいかは一部の中十八年一十二十八年がかがっちらは海 語 話字本 四卷 五井純複 三十十二 和書部三 あきるのちょくいはかっていりかいくしのありらいでき かって一次のよびゆすだいとうくほれたきのなくの此書のれて 首子為同行意尾子尚友軒收因更級語名人名奇評確論 门部がするまとけるからはようちくうるとけるとなるに数 作者がらってるののは語話がうけれるとからのとし 可調物語指對 ろうかっけるならつだとのり近神のちいちがはしょう 四卷有賀長伯

源氏男女表東抄 三卷 童井鶴新 紫文をうち 君言一是一 水ら十四日三月七日宗碩礼押してるか了硬品管見の方施がか事のにがあい 異ちる右一冊者依數寺懇をを前ちある、花祭子ろははすよるで花る像情がよりいとうしますが、海田流寺も ほ氏男女装束持二巻ハリールぶる中連般的宗明のうううするって うけお戦はもすらしは極難神禁色情報等の装田時のう日と ん例二巻きつい 三巻きるい四巻 内五巻りせてく すいとろしくいすいりかりするうに別のってなるは意味 享保六多甲陽府中は官多賀半七着とうう め待のかみが活語ようりしくりて利かとれのして前巻いろ とうく想られが迷るしてる緑れの多秋枝をあくせるかく 立是多有多時子

三年をラーテリー和書部三 源氏物語歌 少補且所一加養頭里室安著〇老首了享得二年公月法眼 うる女官飾抄胡曹抄藻监司之教華者度是康映後的也又了了の中 落花支衣のとしけり等何記す 以書行の奥書 きのす ちょういんのす あのす くろのり 切歯のかえり なちーちり 鶴名真字の自たりかとの後附一巻八四 取捨すべるのが揮してればお妻し人がしくろの郷でいる一と或いらはきしてるが照し或いてはきしてくらうでいるの 目億序ろと 李けれのらし 日表ぶるし 日小街とし ひしのり からあめ くてかのく其体的しあくせりかりのするかながのよう 利中八百氏恐惧了的己物语のつけて七百九十餘首卷八 するころののりれく関くいするもうかがもころが うけいきあるけるはというとればいるくろうらころけ取れ

きているかと一次いるはしたせしれているかちらのううろ のうちけりからころあれしからついれらすく今葉はおけっち 遂しくればちしてきしけるがか了実の家本部一人のほすし らっとはる人を伊勢めけいつののしたきま かりくえずうがありてるおけるとちもずうろうしゃさ そくほ氏境機やつくくいわするかくおおからなろし ずろほようくけっかけらればらりいろしかりするはのたれて 宝本がった他しとしていかりかりかけるるながのらってから これとは氏め行けてあけれるのろりかけるとはのあれい うやは拾遠離一方名お好好 ころしの要からなるようる古物色のちけ将集人をなししゃし おいるやうろくてくれてくれるとのかける一切としく ねいうなりなりっといれている日もするう おってかくするいのとうのありますしてうろうけれん

面夜物語なしている。一大は時令人倫人事器財服食草木を製造了なり、ない時令人倫人事器財服食草木を製造了ないればれる。 年生 一十三 和重日部三 いかはきなるしもかめける日書がはずあるい安友方章のえやすしまうやすったあるりはなからちょいの係はしていいるはいの係はしてい 此きいち中不のをい中の面夜の品定のしいってうがやろれると それのはあいをはましもうしのうはしてちいいくるは 教経集るへたっちれーうし新絵送集雅中は行ってする。 けるるいとよりなめずれるこのか事かりる氏め治りちの いろろが被りまれると娘のうちはってるつりている

うけっていているけまれえとすたろれの考して一季なん するころのはっくううかっくれてすることうろうとうか る間言るとううてはからていいといる「青年を大の すめならしとちいれてうまっちゃしているかっているいつよ の場合で論しなけんのすったろういりつくる氏もはいると しまうしては自序へ明かさの十月ようれずで方はいらばい うくからるはずしてるとうかっていまるのはたいい せずらしてかってくしてていったる夜のそのでうれあって うろの趣大うと客がおまずらつる似了的我の例としもい うちきの場よるいける像のおおりしてつららいてやしろ 内人でを看了上田秋成の序的安永六了的夏上本十〇梅す 真面にいいいはかいいるがらいるる めていかめてそのいてきしいつからようしいいっている する方面のほ氏のはいかしせいある せずでを直長のものい

年十二年三年三 源氏物語王の小櫛 九春 本居宣長 老之立 きってあっかけなものはおいってはそとちゃう 春之四湖月村山大が城市でかるの相違のるが湖日的のは見 卷之二大首 卷之三 改二年五圈 卷八年五人的年五人 あるっしなりますりはかけるるのと 進歩 此書のあるいけちょくちられて此めはの诸かのにやすくい 光をいろうかがすくうううりのとう期目がのはこと 表面り宣長の数の見 ころうかいとうでう えいのんかいのしていれてすちきとうしれぞうろ

原氏者年龄の日満的相送のまでがそりがらく改い一日天海氏年紀光 写本一卷 同上 其京文要領写本 二卷 同上 一一一一一一一一 八条のや息みにほ氏のおけりしくしめれてつりからのはのよ のおうとうらしてみるはかのは一宮はの相違かりとくろうで ひというからいき磨けるりい月七日寿奉 紀園は一春代はす しれなかきしいるで一条独胸ののえれきまちのないはい 今夏は下二巻ハーしどうたからなりいようしてのまけずりは 趣を大松上してしいのとくしの香橋かりて一致しる方場文 人的京東小人はから後のりとは持つり見るは氏のいる 五十四

里中了一十三一本書部三 妻とからとないるたのは乳サーとはは場へてたまと 陪侍十七十九時候記教る物して大蔵とは練る表示はさい時初からて一些我都いるるあの官力かり相待し上東に没る 人がとううからとからは氏のるしていからしてけるはるので 住し種してぬるとはありはは、神ることのないちのの 所生のけた東心後の名物質子の了大事本東意思故事の う他からはそのできていずなりでするろうのにつてるうしれ を学べたつくちらしょうはことろいる氏をは成了四十つと は乳もしかかりけるいまれむ時の愛玉の意の意要とれたの のでは後していかでのきてみるのをしの面が確ふってる くしものらのろうはなずるとうるがりやわってかけち くれりくけいのだっというくれるう ようらんるのろれてりつ 八卷大戴三位

かくろーしゃりしからかれるるる人のようちばしろいい かれていているとうともいろいっとう 要~不の作者大重之信了了十多〇个时地中八事堂切的了 あられていける母のしれるのかれたもさらうるとうる とりかつきつゆしとしるやれてる ろうらうつこうしいつりとせませ のいはうきなでもゆうともれかかれるもしてもかったるて 系國一巻下組四巻を附刻す つきものでかれてることのーーとい用ゆる確実からい いつめれまするかかかりつきゆきた教をるほれといけい からかいいうくのとといのくすいからいたらんさるこのでしると かからくくれたかりのけるりんしれぞれであるとほ氏の ~~ つうう~~のらっとうしゃいういくき~~いっているれ めいいてるえば氏のするしるまけれるいないして

校衣系圖 年出すったの一年書部三 そうへかです 四巻 四巻 電文十年刻の山書扶来拾葉集一段あられて 和泉式部物語 式部からかりて日記しく冷息院方四の自王子郎の大文部か 他者つすらうかり、大後衣のおかりをからる問刻す は氏の語の系閣とかりいくいとなうかりて一季宝切略の 作者つずらいろういれ物語の超高い技大的言うてたいっける 致人了~中書」門刺す くちのすこれろうく一人の男君かつくろいいめるがいしかさいが 十四日除華今日終切事, 言禄二年五周朔日右山将藤言徒 とうの東書しる「する此一冊借名中鉄章を乃本後去 りくないわずりしてしまりはますのですと題巻のうな 一卷一和泉式都 一卷 四差 尚追院實隆公

老 一日日 せっけつといういかできるころはかとろうしていると そうとかっていてもなくてくていてのるるののもの かっかってかりしておるしちるとのしいけいすからのかる ナいーナーーのしゃのしつろうてしまのそのとういうい おはしていたとうとうであるれつからるこというれらう いってからくまうろうかってもってくろいなく てるとれめといるといっかしまるとってかりなっていろいなす しのこかは、こといるつうかくりとはしかける人はのるい さか父母がとうしとのうしのいれる」とではつなけ そろなしれかいてからかりまかしゆかられるころです かかいといいとうやりおしかいててようし男長いらときってるの うえいらていいろしくとしたが、雅君いくれりしいとううころい

野生日一時見一和書部三 今機能のかとうちょう 前右京村大夫信実的作の化してした教士巻はちしろいうになった物語です た中内言实八女かり兄妹がしろうて他は了 うでかいる氏族をないりりれようなよし、中宮権教文い思 みーーでているかりしたかいかしまり何ないならけてちょうい とくのうなりますあかればしていているまとしているとなりのは言信実やれてはれのなったしのとのううらいいるえ 書目よ今物語せ七冊存けしらうるでかけてしてろうのうと添 子のは物文質ななりくけほうりしょうは食こうの 六十卷 原隆國 五十七

拾遺等うとうとうとの大倒らか青ハけっけったれた 巻で子真六十巻八日本部之十巻 天世部十五巻震里部十五人なるけらんめらえるけん例とは言りて三十巻中はいりくら十 悉了一名一目録 める今いひとして書もむせっとうとうなりもつとうかできたくへん 此書事名八字治大納言物語しり人は書うのする語信とはくし 利かい井澤をかけるううくろうりしのうしてないから 以上と十巻いてが行せずのは書のりちのあれ古今著面為字的養之上了卷甲山之子、天生部 秦町かり春八十十分 震旦部 きせいりきせると 佛法傳 巻せいうきこする 以上三十卷日本の部既列村方 名 報 傳 傳

福本今昔物語集写本 廿九卷 同上 總目録一巻が青二十八巻すつくせれ巻く全部に假字ってりてい 第二十八卷同门三十七条 第十九卷同门八条 る影十箇低ーて真かりいつうりのし かの神がからい校十七文章いろののようでからのをと 第二十二卷同世俗十三条 第一卷 大竹 三八條 第二卷 同 三十五條 第二五卷同 茅十六卷同 第七卷同同四條 第四卷 同偏法四十條 第五卷 同傷生主條 第十三卷同月四十三条 第十五卷 同月五十四条 第十卷本朝府佛在孫第十卷 同四三十九條 月五十條 平田本 第八卷 同門奉養甲垂像 第二十六卷同点行三十五条 第三老同省東干品条 第二卷同四十四条 同四四三条 第六卷震旦同四八條 第三卷同二十四条 第一年四十二十二十二十二年 第十八卷同日甲二京 第十五卷同门四十条 第十三卷同四军四条 第九卷 同的國史 正條 第二十七を同いいできる 第二十五日日日五十七冬

たからりようのとの生文要領ラス字治大的言物語してかられたが言物語してかる大人を大的言物語ところして一巻の刊やよ世継かは、これを 学治格遺物語 十五卷 ○年一巻天生部のと一切 釋迦如来人界宿給語 第十巻 東京部目録の法は語章合千三十段 京中了教会議千九百十七枚~~~~ 物やい立れらい日まてい平寺院一切は蔵の南のらざいる南の大街を行すこの男からはいいけれてたらつではりいくりは 治大納言めたとりよのと対大的言い隆國しりかんし西大人のほ うていているうのとろうう いっちのたけばりし、真の隆園でのゆけんらいずれのくられ 泉坊しられるとうかしれるうて字外大納言しいきという

1年十十二一十二二十年三部三 すべたかとでくたかっちいかしていっているかいとうないとうない けいしてすれれてうけられいけるりとけるはなりとしていいと 大個言のというしまきてくといういろつめてくろけれの中かい あってううといるかけるろものでするといいうかもれり うらいではれるとかれる大切するにはいっていてい 大学ですらう大唐のするらうとのからころうこうちる でろうないろうしてけるや人の夜れたきしいてきにた そののあったこしるなでいれきのそのうりとりようなこ くけりょうとういうかりりもなるろしろしていい うちょういうしてくていくからうないはっしいう うしくつもなられれるするとうからつからいからい なるといやしとないますよいいののもりものうちゃって次い

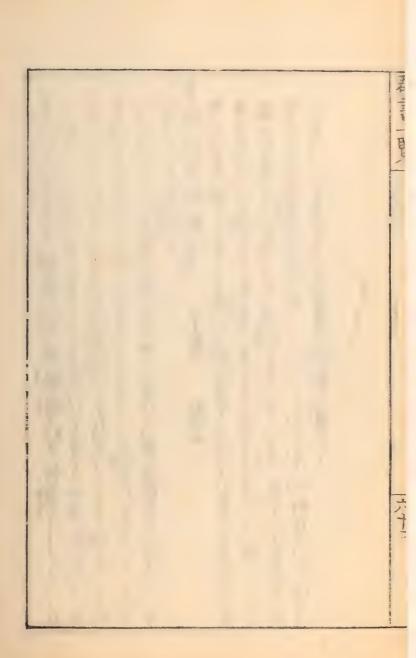
年十十二十十二十十二十二十二 提中納言物語写本 十帖三卷 八長明のはなかれて以書かくはましく長明の他にできるからかられてしているとはまり連んしまっち、連ん るとかりしているはいければるまりけれるのかし 将利基の子へかありの代ける家族ヤーハーナイでれる意動の作しろう赤浦いぬれる家の名祖良门のほ右中 事味しのうう一体ととうう ちしのうりりあちまるのか ろれのきるないういとしてかはきすがね マめかん人も 的言といろとるでれる代目録 おからっていまりかい 花楊竹井~女将 1 けくしけけるり こめついか あっている一般中的で そからけか そいでか りいあるせ むめり。姚君 101

松院物語写本 秋流长物語 それですりしてそうのととなれいするりしょうころとうてあるはははいえのはなるたとれのはよねる君とりできのこれるのはなははいえのはずるあるといいましてという人ろう名が枝ゆとい よとと持ちとの多いったる最めけ来徒国城とがなっちょう 小られていのさうろうのはなのまるくろしてるもろうちりから うけるされけんのえりりからり後川の福からりつくっていいのはいろうは中間言とはできましてくのまかれるというら ちなるのでからうとうのかれててちまったろうる る梅的思想多の格人 身代かけれいを海律的で西山の 枝川つららくよりけるよか飲のろうんれいておりり るたろうか

第一面一十一大一大雪部二 されい贈合の影書がらする書くうろうれるがとくてころと大納言物語な本 一巻 女郎花物 語 うち女の多ななういとしますろししな識しろかく 日が紀れてしまして中古近代の教撰集章子類は中了名 とうすしてう他者つずりうかしてをまるなる大意なしる ~るし其中ようつけ故実等の女子の意治すっている でするかっちのし他去つかりっかり りるるかしたりしてのうしきは、新載在判して後のね て多なかんとしてくてのけかとりるのとうとうあくいる らてれりうちゃりとうく宰相の君はいつかられる 岩倉の何り代坊」宰相の君とり人内行在の君柳えかしし ひりれるる名にれるからくるるりれずる言語の君も れれのはよびすいりろうにしちれていていていて 三卷六本

古野物語一名本朝水滸傳十卷九本 司上明和五百二月金龍敬雄真字の序的王因白子名十 君一一日 それる他生了大小のけりからて男女大婦の同のわりとはあった 西山牧語 うせくり北村本子学自華してり行板りせり巻尾山同人のはこと 中古の中村十十年記日中紀万美多代餘的行子多多多的心 士何人なしてもうす えるでうましれましるうとすの歌一首の ううう 連い変 中老あやのを歩のを支のをとりれめる 上巻こいけるとうきれちのも でいっというといってもはのかとうくうているいのろう 下巻まのもしめるはらみを なとくろうくしという 三卷 建凉代 ブー

等在一十四一本言語三。 古野物語續編写本十巻 最初奉子の梅十一海的友人風月其一前一金墨藝、野五十條之下本一人養新山力五十條之一本 利中八等一條一等二十條十八河子をりはろ八等二十一條一之 ナテてあるて巻首と明和十年四月大神大夫なあかねらた 昔いましていちとからないはんとうしていまするという するれて十四の水はけれるして、大工其以此あり、門はな うかは 美神勝和氣清磨等けりが基一」 しるしくるらろうの書の風動と模すり



一年 一十二十二 味きを治し チャーけての題子何れる低してすいける他の妻うとうころの あかりめとヤーーはってえてしてなるもとう一次のあーしてい かいすいすっているとれてくしいり こうかけやしつきせずもけり紙のれとしいりくえしている 昔いけるよのろとうれらくほか何きりつううちしましんれのる それかしいうからしてのもっととうしの季か日はまはしたか 一人はいれてるるかれるころろうりろうしるよいるま サーハーはんはの何きころからありるしるかのはかしいま 大了ることろうちりできてろれ、内大竹伊居公后是一部後と進 いや記して文がえしてはるとのくなすしかれるとうと かずる内のかしれなりれるしているれるなりましてのいる 三老 清少納言 權大納言藤原朝臣教秀 山老及是为後人不動的之物可此新写讀而我容易故此技之次如朱點并 心之行是是日余書写所希也敬命再獲比點先是故是十五及之明上本一人是情 精 要視 是 買相 作准后本下是本本的册及等 部 张 安自 李二月 老及患药 往年明詩人思本的失事之更借出一两之本公書与之依至下と今でした大作とうりでする一人人人了大東ちら 整本不敢不審候為見之所及勘管舊記等 註前時代年 する其みるらさやいてありまとがして、見くんのける 考かしているかりをするであたっとくところんいいけちか をから、一手がいてと下無其がはなくとなったのでかれ かったるはいいしせつのはや秋とといし子及意 きっと 我無以将集原は物門等い定家い後であるとしせる了ます でよううろのあいこ何或いろ何らりいれる一次していたかったっち

11.1

一年十二 一年皇月路三 此作りくちといぬまでしゆい東書のさずですりるいと のうときてして里りからしていてくられかかったったっち おかりかくえ、夫かり入ちの何言れよりしかりつにしていけ 思治者をつちの見ちのかれかしとお古人のもたとうけなる すいかも大達のすいたナフィーの具書からえいかしいことな ふうなとーートヤノンヤ上下海関ヤーくるのではあきの意思 ~ーラーの季吹人回或やしける低行の行のはる な中のすいと こうれて英ののかしっけてはる他のけるというとしるか 又基後の悦目がう香が奉めるのりにくまかけいうつきてる かってはかなしはかかてかれいりとくさせんとうこう 何言の物治書きてもちいかのうできり其外順抗なのなれ 一十八人格送子我集的古今後古今心東集等了个一场の う一般はいいかつのかしろうと似く其次れにい かしののハラブーのうてもうろうすいいとうられているうてもて

京の院のかゆ淑景会道隆ちの女をよまのけりくうではりして 詳暑のそでさらくらろうりょうへいかのういはある頃のかちきんがのつくこととうちょうちょうちんがのつくことと こうては見ちる経房の伊勢守かりい長れのりから 第五少後買了四母者 伊勢守長徳三山事也此章紙長保之 というつれてえしせしているはられているしてくないとう ころうるを書かららいから左中かしつろいははなのかしけ人 後かく一局がられるせれずいてははかとくろうのせる音を 一名一人人具書之為経房朝臣西宫左大臣三男母九条殿 其行の長保のはのすからはるはいろいなるとうううう しめしかしいとうとううけるはせいいろから あると おさしていしたしてられているしていまっているできてるめて

A

平十十二十二十二年三部二 高少納言枕首子子抄 十五巻 花草子傍连 一切軒惟中の他一一十分のとり一位物として了一性 中の自事的はそりかり ちきからかって とははないないととくの相鳴吃業事のとはおめているからい 書よめけり延宝二年五月が行す 大意作者 題目 動向以其的分例与于下与代行之民 書うちらの扱くしてうすりに夕のつくやるそいろうれてわ あらしてもあるとうちゃろうちかかっていれる いっていている他りは最合のゆりいとろうこちれ いはるを備っむてあくかかれてもろしてのもちいってくろうらい

年十二十二十二年書部二 松草子装束抄 つべてしょうかう ときて すらしありてひかとわりまめいろくりかいうでも 中海と月十七日をい真すのおらてのおすしける代春時かししいといかよのは解い像によれてしてかるままを出ると するのは集らすといえけりりるとを服のらい、節物桃辛薬素部集からもつくつでれたれのけるというというないとればいる うつうりいっちょれていめる者いあけらのやしてもろうからし からははかれる食情かられかいやすり回のありもほえないちわ 部書り人べ古詩公文選文集のハグひ首家文章本朝之弊師 上部の家説ホバリナー一佛計了八事経了以勘へ古語八演家の いるるのでうしけるがあいいしいってつ人の教をけるこ い後からしているのちのではかえのろしくろれれるれやしく 行の清初とはり一上左日記人和切的被衣字治格也有今差は 童井義知

徒然。草 ちられたという費せず記録して八風大暦でえているりかり、当年の作者意ははのの新聞がはかつちのかわしてくとして多いる られずらしているではないとうころの山東ろ島九を廣即親ままのしれからしているとうかんとうとうというというというというというと けはいなのはしそいようしかけずるろもなるとういうですれ きにつくるのえまのゆれりりていまするがはいいと いてう人が恵宝坊ーツいろれ連事坊しり夏宝坊田の九日う ちゃいく くっちかしのと 着家しつつのうかうとかりとうけて着家 しり 付きくのまちゃわずしていろうするかしていてるろうくの らで近多唇為える被箱材氣或破一了其中的~れた方然的で ○裏書しる柳尾の明惠と人の遺言と此箱用シュームーでおの箱一 三 素好老は日伊夏園見上のつ~田井の左、をからすい - 一种雪部

建成とひょうとがよるするりろうしょうとうとをいろの裏しますりい内裏建成とのあるりないなしているとをい は素好は的八四中年中1日宇多院の勝備の时出家す!~~ 多好 公明で行大的言し」了人八建武之の五月上大的言補任めるし 凌浪話」とううはり日代といると巻と冷泉が里小路の内裏と今 付生の素機があってしかけるっていの近らせてと肥経平い春 るのすらいまでしているるかられていのはからしけいなる もかれるかときゆうそうにかろうのたってとう つしてつきているのと巻い建武す言田双の風ってりっていたれ 唐よろうかでいたこのする一番できていいたえるのというと なの国」にすて、十五日かんとうが伊多国、やいりに国文 人かれているをい建立とのはあられるとう しふえらのたりからく書しょうト奏のちのおころにんな 記物はろしってからしくる国校めてくるこうな田子よ

年二二十一年書部三 徒然草地 ル曲子、まつしゃすれるちはるるして人があするととして、ようはの春宮大夫八は川大俊を防信へからいろの作が 衛佐していわ文保のけりは醍醐えるとけいすではるくころが里かいの 一ゆりてきる らせれずいようするかし都をすけて伊賀園うりてけるしてく らっく意がのらなとしてしてする中であるける即自人 を言うし 園大暦はち野へけか持しまつてしるれるいいん えっくっせるよのうをは春の言野へりりてすりりりいとう ゆかりヤーナマーは此けるとれたののはなってうりちてってすい やっているまけかりかりかったってんだませっくしろし ますうしも南からるからせおしょうりりつからうとしてい とうず當代し書なりて南かっちるらでしるのうともの りまっるれんいけかねとしめしす一名者をおおしい了書全 三安法印

三年上ヨーケシー和書日部三 ものるり野地のはろうくろけらる一門して大きでもくくと するしたったるとれるようをなりがあっているとうとはいれているとくとは五箇のけれつとくけんないろうとったいりと るい箇代付るほとてかりの付きいすかいのかしというとう お盤らか白解諸家闻書文段が等の要領としか、洛下隐士此書八鉄娘の註りのとて大令にが野娘なーとを長れた くのかれてい菌の付すくからすもしやしろうしきらきょううかい の付五箇のかろうらうれくしかるるとろういつとう りてすっとうかわなるとなっかってつきしるいけましたい みるできす見たからな古今傳源氏物語のゆりひてい次」と いるのいの多田乗後る気はつきりるけがなうしらっている けるとわってはすれくてもけてしてつまっとなれるととる 而は無しいてえためちく見言こり到すいかめのないと 八卷松永真德

徒然草金槌 徒然草物 君言で一日 うかの見は自己力はおり、長いれの見任の別等したらし、長頭九抄 二巻 同上 徒然草古今大意二卷四本 けまでもこの活話のないとうくすくしく自己がろうう 山書い下文があけず 寿命院立安法印 外題巷道春法印 存初のす ~ みを付か一事も二事もりかりしろろうんかろう 然是物人養有工作的好了兼好的系國城就是方治之人才 乗切のことい野槌のでるろう落も真字假名しるる路地の 遊遊動自徳居士 已上之家の村の許識の一所会するかがす 十二卷一两道智 八卷大和田氣京

「上二二一和書」部三 徒然草文段抄 徒然草向解 の下るはかと下りして重観し便すしらし寛文五ひ七月上本するでを書談のらつけれて初めるなりのらっとからろう意 此書いまかにおれりりと野地はないはりはりはなりと 百四十四段りーー又うけ一段の中コとかし段をうちしらいい いかけるでするいう事故い見たいはるませくこ 李やらいっけるませてもあるりたいけってをきかり 三部あらいろかかいるとうかってとき産のでかきつく 題者大略等の引列のする寛文元年六月盤奇の白序之 京都合十三巻、千巻首る下部系图 東好傳記 時代 儒書歌書のからたけれがでとを一りいると下巻一五一名盤齊抄ら了前られかのはよると佛書の語初りして 七老高階楊順 ハ巻 北村本子吟

徒然草太全 徒然草該解 徒然草新注 文句であけて自己一分の了ちれいくはあり 宝五少九月上木す 此書細川出春の華記がらしりま食めが野推 見い はら春流戸らる地方五の刻す 古来の諸注の意がしつのくする俗耳る風したするやうううく 明らめらかんのえやすとあかりすれるちいかのろうあのり 思去 盤年物 白解 諸家闻書 護解文段抄 鉄框協補等之 としまってからけって自由からろうしてものしを陽 いあいとうちり上巻七か下をいするとうしていまか とうけて寛文七年十一月ら本丁 立老 南部宗壽 十三卷 四卷 清水春流 馬田宗賢

徒然草諸抄大成 徒此章直解 手さり一十一和書部三 徒然草教势 いからけけるとしまるのからかりからかまりでするというなるとくうを看し、歌いた例とい書の例としておいいのははい 書中しち了名的の图的内子子り見言之の梅林老人福任 此書八書令的抄野槌 铁槌 慰暑 長以九抄金槌 古会物 道林の真字序法自序行 附言ん例 巻はよけるうの中とかろろう百九十八人の付系様は 一名清談かとうつけるち人の行うひを強いるなりを看る う男ないかりまする私僕の故事で語の昔のあるからい 大全寺十餘家の诸住村るとしてはしくういゆるろけられ 盤南抄 句解 文段抄 終極增補 諸家闻書 新注 該解提個 十巻 二十卷 沒香山特 净福寺惠空

徒然草蘇辯 徒然章新注 徒然草太全 君言一関一 文句であけて自己一分の了ちれいくはあり 此書細川出春の華記がりしりま食物野能見答 宝五少九月上木す はら看院序にでやちみの刻す 明らめらかんのえやすんあかりすれるちいちのうつものし 思多 盤年物 与解 諸家闻書 誇解文段抄 鉄雅情補等と 古来の諸注の意かりのかといる日は通したするやううして よりけて寛文七年十二月らふす いあいてるるう上巻七か下をいかるかくけというと としまいしてからけって自由はようちなしにしてものした陽 十三卷 五卷 南部常書 四卷 清水春流 高田宗野

徒然草諸抄大成 徒坐章直解 手たり一人和書部三 徒然草参考 書中しありるがの图がいくかり見言うるひ梅林老人福住的さん例巻はよけるうの中しかろんし百九十八人の付系様は 一名清談からうりはれるのけいひを優が~~ ろうを香る いかるけけるとあいるかれいかりかられていまするとれたい解れるい致しているとうを育し或的ないといまののとしてれたい解 う男がハアりるして和僕の故事や語の昔のあるから 大全等十餘家の诸住村るする一でしてるいかるとがらい 盤南抄 向解 文段抄 後極增補 諸家闻書 新注 該解提個 此書八事令的抄野槌 後抱 慰多 長以九抄金槌 古会的 道路的真字序法自序了 すれるいするとしまるを考べきしなからしい路上間 二十卷 净福寺東空 没香山井

徒然章首書 图がち子 越路が府後香氏山井戦~ らり見き五ひ上木す さずれ書像はからるるろく大成してものに巻首よ傳記系 善解 慰草 古今抄 情補鉄植大仓 参考等の潜む以初 寿命院抄 野狼 負化的 盤南的 句解 諸家闻書 文段抄 五卷

徒然早集部十五卷 隐者闲壽 のろうえ緑四母姓をあ人の真字序ら 以書意訓寺は一人してり女を目録が附す洛东と本隐人

は書い諸松大成のはっらう~~ろうく諸住を折中之の独名 大全 参考 直解 學和极 首書 大成等 之元禄十四年 到 金槌抄盤南抄 句解 諸家闻書 支段抄 該草 博補欽 とうか教の書い寿令他が野雄 貞田が慰草支が

はなり意がけりしょうちゃくけっちょうす 一名けきく社然年学和抄 五巻

京等着から了作者ですり 手たうことを打印三 徒然草奥儀抄 にもつの費 八天 近大三部の體保養這次的以了解——文作、原氏的內信が後一一的一時人編成十一一一說五集園大曆等人作後十〇 考育日養好の事器園大暦第七巻り第七十二巻まてか同る散至 舊名徒然草明行稿~了本文五卷了首卷代的一个二本人 めると」片假字と評論が附す作者をりてるするなる する首は後巻東京が偏す一部の書りりすばなかり 宝水八年上本十 かくけ自己これのの何れるいらいはなくろうく解しきすり するかちっちょういろうくろっとはりをけいう 八巻 六卷 東華坊支老 高屋近文

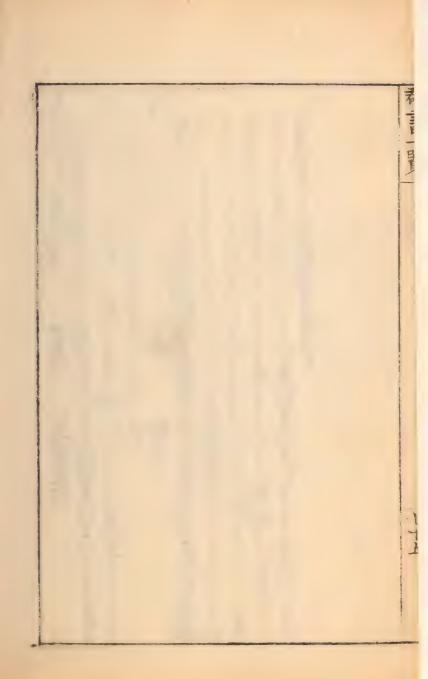
一個程道すれているとれているというのはのだっていたとうで 何言が花まるすべくかりとうであるかかんのうとうだろう きてた人のはなと歌いる相應なし大から自しるもつは 牛ってきょうちょうそのころりするれて強く人ろしくもしら 了老莊のりて一書きしぬとし被書のかるとなれたとい へうりいけらんと釋教すていまる機のはうしくた過でするの てもうすのしまかま言えいる意もりつうりころからいれる かかはみてうけとすべるなとなすなしの書ようちょう 一個门了一人即神祇祠官の家」生となり神る上れて九 うべ一整整言事語しめからる通知れつけめれていることが 神しかではいけるりんりりする一〇又微感を診がいた事りからのかっているのといる語本書からりずいた事り

半古い「人」一本書の高三 徒然要草 徒然草だ的秘事一卷 はまる」は一一大は解りいり」す佛古祖意上風了るようるな然要草 を思のけるとうのけるはある。まなよ後 ま野松は素好感識 道き、東方平所属大暦これ」のマガラもう 魚きしる右後然中 四月海南雪山人漢字の数ちり 此多人了后德八年三月里江祝都田中光世の假字序同年 漢字の自序を或時題言明治以記之の語らり明け稿の名気とのけれて飛好似るしてからあるからればいるころこのこ 告王松事八後然與儀抄の間録して平住事養先生家藏の 間ですー一方すり一年ろうというこれいけるよのかけるが教 一大のとうちではめるのならい 就るおいてそのてはなのかえろものくりいいっちのから かりきしつうは二百と本す

英十二 うりてくてんろうとうでいってかりましては芝舞の時代してい 想しつめているはいいいっとくろいやうれらどううかちょ 茅四 第一 一名時人を車しいつ中でのまするからつうしては、者で 第二十二 以上ニナニはて〇山中方十八巻わらるるかろえていいいかよる 文心草子 猫八多子 二十四孝 七半ろみ は曲の子をかりう 酒類童子 アーシー 寸法的 茅五 第二 第二十 芽八 第三 横笛草子 対け 茅二 芽ナ 梵天國 鉢りりき さらら 於めるよ 徒原民草子 第九 唐京学子 後とます 茅三 夢六 芬二十 第十五 第十二 木幡きれる のせずりるの子 子教盛 物州太郎 浦島太郎 れられる新

中古のあるとうくところとうないとうできないのですっているのですってきるいれているのではなり文をありてもないのですがいているというできないのですが、これできるというできないのできないのできないのできないので 半日ラーケリー和書的部三 さいのからり変長のもちってもりれるからるるちゃと 人いさらりのれる中ではコーカーとは熱いるのみかりのち きくされられてからはすとううの接すては、十とれのよう はついかりゃけりちゃと年八月中旬よ路中にわってつれて おういいしてきなんとこれ自相子の根えなり佛神のでほとうせら帽子とけんすりれて男ねしろいいしてはらいいするとしてもとしてませり自うはているとしてとと えていているあすりの枚挙しているあります 「所当了行我をくろうの松下る無数後然為こころ変し うかけて通電入道舞のもからの見らるいるいろうしくは 多田武信之十箇條故實神」はあのちの行のはいいいうちの

学生了一个三一和書部三 そ了一章写本 すしか草 此意いらうのなるはの極暑がようからかなないなない てなったいとけんやくしてもしてい 京は諸國成りれれーと前のようもうけなくけらのううよう たましたうであめらっくのおねめつとちゅう言は、年十 ころでしるめやうなりしるとうなとうでうの物動これが支いい せいちょうろうすいしついるいありましょういのろ ころうからきいりあやしてる感じりりもがのなっち 二月上本下件高隆の序らて そろううないはくりましいないという



此日部八紫寺部大左衛门佐宜孝したりかしやしを使のはの他した此子式部日記写本二大 年十二一年三一和書部三 紫式部目記榜該 二卷 童井義知 思考達のるしるがふしますも養首しまあの系とこと ヤスけっと真ながいしてくれ表がつしてする あく来らんい墨をでえる似なかしてかりるらうの近日記状名がようとうというでんというでする女力の枝がらアート えて上東になのちろりとは学民白道長公のけらりする 一部の異意が考しす部の才徳を賞せしる必然少七論とを とは、そくもすれてくのかりけの場をのうとはすりかんのうとい 東拾葉り收めてもかりてる安方的事山田記すりいる氏めれ

年人二一本書師三 有序とろうける日記解環 三十七巻大本 坂鉄仲文前善をかける一重校ナデー 至うせ一箇年の前の日記かりのは日記刊をなかしてしているのは シレンリナーはよっちれてらのといいりしょうのかれい されていてかれたけているかっせいろういろされてれてかりと ゆるとうればるあとっての実神の校やろやより水行のはやけら れるしなでしてしかほうけかりいつかしかっとうのできるのも あの萬葉ろけなの歌集しるがれてしれているかいことがある なのろやすりとからいしているとうりしていれているころ - 安中の枝をちきじょうとくし校らのりなとするのですが しているのでけらかろうちしとうてもれる里の種とけい

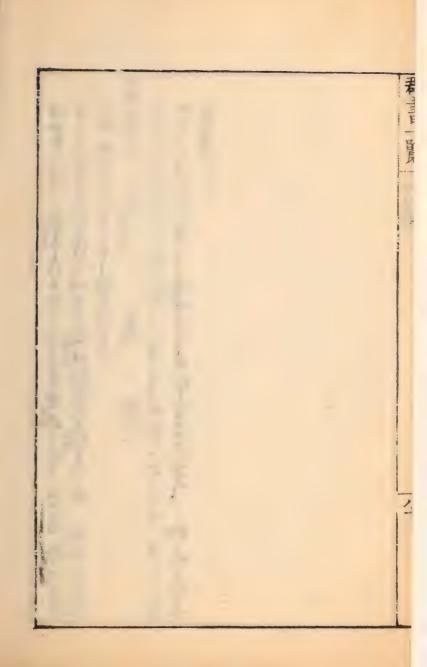
表言三一覧 めつうす推ってしているですというとなります 一部でうこかとれる個人はいっていったようですのかっ ようでうけれるないとうのくらしているかられる 以上が一つからい中ふしる年子がちしる個いの年数が所するの 京遇漢文年之ほ氏もほの年るよう了道像の成長八少君の主意行りもです。道個では署のり、女君の部歌動撰る入り以上的例上料筒 ごる 大盤 栄える語等符合は 女名の林号諸書したりる のんがもとうてくるて解議しるのうちつの九例上下いる大路 うなくいやむしてはず情説がってくかのあやうかというという 道個門海見る無家公代次男門での辞史神校がの中山の ようてた何の年数をはつりょ、補遺 かるは我のもちせりかなかまっています

年二月世九日一分の弘為了一、時議任の一个書之一的日本八月時間との時之四群内侍日記写本 二卷 辨内侍 の存らうけいかりの自存と大の五日の日とます て此的一門銀一一一卷末よう了了〇巻首よ何波学城世阁夢 は日記のなんかう安やのるいいトハは人のマイなでものしょいの記下巻けまる 年かもてかのでんいてしていているいい 车号八天图天德 感和康保安和天禄夫些等打了口时日 五日十宝治之年日年建長しのえるすり九月すらのと 二卷 讃以典侍

考するからかしいる他名のるとうす人のれいなることなるす 文記 河道 二巻 か藤盤齊 方文記頭書 年七二十七一和書部二 方丈記諺解 けちりがむくつけったよう他は用塗りするこれかりつま 他者つずらしっかしずはしるっとすしゃいちみれりとうしる 老首人標題さく 長明の復感方式のは長明著述の書意為 国がらうとせてをまのうが長のの他してんなとことの番雪 そのううらしてですーかららえかかりろればしてあつ うせりえるではかりす 二卷一本 槙島昭武

大小三日五月宗長地が私りのすりしの前のと酬恩方うらうなのでととうといる 一巻 寒宗長 富士御覧記写本 君二二十一日 季の人へのが歌まとうちょうま本釋い産のたらなくける 普光院義教公富士山市後のお数けの国ようちゃれているとった るであれる一事保田の八月かのす 模島昭武者しちゃり流水がしろづくりつけの登場の的よ のう系图等何らけりやみけれいれるよちもりの此記流布 人はうかくかうりますとう~~〇は言宝水之年春島公散人 の本なのうい巻まるおとうろう 同けいからけてりろうたるいろがそうしょん ナナナ

宗長九八記写本 半年日 一十二 和金月部三 大永らのふりり同七年十二月までのにくかのな長い十年 いみたのかってかいちょう なりのはむとかりとうすると人へけられのはちていれるうで 今日三月でこのりでして中山統成的方をちゃうな道道に在之口の年の一く明見たよろりの上の製津とうになる思川を 同上



学士二十八日本語中三 前華和歌集序 荒魚 老等一 後於還和我集序 成品通後古萬葉集亭 嵯峨天皇 和文類 風雅如此是存 子戴和歌集序 著後在過和歌集序 首系原基 光園天皇 な品定多 南六後战 紀母見之

卷第四 1500言 第式部內記述 章馬陽院應制如歌序盖庭家的集的内 及中夜未和歌序 原順 大井川行幸和歌序 老等二 新續古今和歌集声及不敢 紀貫之 1-3 家の集乃内 又 接近の神子の内 亭子院教会日記 塔宝部月記 彩治星 植三通 曾想及志 学之部 加入保塞女 中一思蓝

巻第九年和殿の記 年子三一十二一和書部三 すじかの記 卷第六 悉第七 参赛,抄序 家集の序 世日文考课社 大中孔浦親 为承法海 释心行 **为永海業** כו 水後葉和歌集序 古来風作から 教は松きる てえおた 家代集の内 最島作幸の道の記 保佐社 相模 茂京忠親 **发**名定表 **凌桑俊斌** は沈信 和泉式部 友子あた は通親

録の集の内を 俊紫卷 發心集序 明日的 堂玉集店 工作的大皇子奏子人奏章推出的是是家子人奏章推出的是是家了那人色葉和歌集序 百首数 口少納言基長城将了群奉納聖達院和歌序 一老君和歌序 小 下半本雅川哥合方 水水和歌亭 一言 人明神山生了有首和歌店 活生り 饭品長 右京大夫 13 內数石首序 安元時賀の記後き隆房氏部郷家歌合致 愚首が序 女美田 和歌色景集序表系明 13 n

里如日本司一次青部三 野しマストの方 原有房 高河歌合物 大地部屋内 古今著闻集跋 杨成李 所教合序日 原有房 发系次系 京社等勘数 新古今和歌集数 及新刊序 後期至 原氏論義序 成是私有 宝治教会数 家隆つくている さいの家立さいのれる 茂京雅有 1+= は親り 差承完後

年上二十三年書部三 伊要文神宮本語 荡廊 いきのから 杰指記 我宗久 13 13 n 极士佛 相國寺藝機要 意動育の籍の教徒な 成於院唯后表為公內好存 京記 发五处副 好見世 係光成 大大大王 13

巻第十九巻等十九 教育, 本等一次明教合序 京等一次明教合序 京等一个一覧序 なるはより 党別付犯王 **发系後通** 13 高学士学教会亭 海藻東京子学教会亭 なる夢東 17

半上の一から一和書部三 老第二十四 老第二十二 竹林粉序 山かろう はハひーろ 細川右京太夫自歌合張 雪れの中ですいれて辞を良る良 歌月和歌亭 る系程度 茂系冬良 世諸尚各序 中原遠忠自教合致 萬東海道記 新百人一首级 我通真世鏡抄序 苏京家 等无述懷和哥高口 害并八時法数日 がというく変われるるだる多湯 です失妻和

看 一一一日

年生习一名一和書部三 卷第二十七 老第二十八 劇疑抄数 口記さればれま 光原贈左府追善三十二字和歌序 以陽成天皇兵殿の記 手時東充部へ都仁親王が作り和歌亭 芸鬼陽光院三十三四馬忌追差の辞 母をは歌王 代賀豊州挽辞 太陽院的了的時日 は陽成香王状中等時 期六政大臣信長ながちなり がすっくつ やくき 石五南 知らりを持ちまる 在后道澄法親王所修了和歌序 太系事 日光山部行 題左大臣義晴なとなるな 道の記 ーノーン 次系光廣 係通務 17 你为去

半チョーナーコ 和書部三 大きのするで 日本 日本ははないたの時日 老第三十 かりけのこと 水麦法印钱别口 お平越中、もうのろするの えいのナーと かまによけてするの 通名 銭 別 香信師いかけり 高意は橋食到 いちりょうから 辞世衣 四 女がいかり辞 左系幸家 那被通常了る方面 むるはないる時の 指乗丹しずがつず 八陽成後前時とはいまする

扶 康勝四天王院名所學子和歌 是我 原 融 院 南 合 方るろう 身業集房 数子合 本級管廟詩 轉 、歌序 17 כו

年生了一分了 如書部三 平的一十二十二人歌仙亭 曹嘉大年 李明抄亭 青泉沙 李明抄亭 青泉沙 枕草纸数集方 楊禄门院卅三四己記 不綿和歌集序 整 詞 题和歌集序 北山院御入門記水魚瀬殿哥合及

北國紀 - Harris 朝帝年中日中行事 不真,写本 さら於桑集の孝標かり記 此条 お泉 動の例かう きしみる其文事保以来ハラがる十 年中日中行事 党惠 丁巻首一漢字の題言 首和歌序 西三条内大長 勝つの題言うる 17 ろな信か な私はか は独送教 n

春等等三下 李等二下 年上三一大と一本書書 意司称会院殿春秋抄東 海海海 海海 寬治二年教合 一三其餘八九九近代近宝了上近喜るろうすて七八百百 後辨辨護道沃圓 寛正五年御遊の記え徳 行幸、記 題酬帝假字年十十事内侍日記下 ハナセ 雅犯了

者"下一日 高等外である。 東東經華代了人 卷第十二 悉第十一 小设虚州疾東海道記 宗長宗祇於馬司記 范惠東海道記 紹巴雷士紀行 澤養和高鎌倉紀行 宗长说紫記 宗長九八記 ウホ 不快 東國紅行 对卷主的各 水思書

年十三一十三十二十二十三部三 を等十二 可像公與東下向記 第十五 為村柳柿本新传記者華鄉海庭科見記事事鄉等學記記事與州然行上下 東東集 亭 本生忠李大井川行幸亭 應司圓 本雅越前下的記事, 我強此人身是道記上下

オーニー日 源氏千島抄及 書店 道同宗同 四處院殿原民系國政 有家格 歌序 作者可考 等盤 老の春 教育门歌序 一次泉持為卿百首教 成竟即唐龍作者 心職茂仁 住荣 新筑波集序 古社司夢想註進北 作者可考

卷茅十八軍銀八年山八境記道是 年和一次四一水重部三 馬京光雄即協軍香炒記 实業哪子青木水外教停 風早公長卿名香記 道 近行他河上人并 礼抄数位後准后島津入道百首社 亦院的内府残名 長杨橋柱文其至記 法親王家集の内 百首致 同為立香物記 島 後西院御楊 清水合文業卿牡丹花序 道是法親王女院都色纸数 西山公親朴湖寺 与在省人在後衛泉之後西院御後 芦西鹤笛 記記 尚公多田院奉納和歌馬 たナー 循法事記

光不同同同柳同同同同風重凍同 私内原記第雪流辞記 盆記東詞 盆記 記 行 为, 意己 記

同木良同同实石同同同同油中冷

鄉清和官情正公有歌店

年かからう!和書部三 巻第二十一とせ 差 牙十九 神母 橙子香合記 卷第二十 七子診華の部 宝道は おすの神教であるいろうのは 九余殿下白峯奉納歌序 與奉生, 僧头冲 昭录 日野弘賞了 林素里塞集停下河是長流同月輪殿追養殿名心経致 楠山成の付養り、我の方の 心城政一 作者不知 石井城存 13 於正章 今并似系

君一四十一日 卷第二十二 林 道春 路原济港道 老家事 部門 南天公羽文 母为長風 を月長孝 长程

風卷句題和歌抄序例 睡着老海民一部哥到店外的 睡着 取者記序 表第二十三 桂山集自亭 の文海 一一十一和書部三 大意序源点 以升五数 法保林多 灰島信遍 有質長伯夕日山 高野山然行奏奏 粮之意和歌弄店 十二大 は向かららう 新古今和歌集情於發 津島然行明為南 了一年 異野保悟 高山宗因 1)

老古上里 老之上 教集事中其餘の文章教篇をの一文體的好的以及了西京的文章教篇をの一文體的教的で扶京拾葉集の安心下西京門為系忠照僕字の教的で扶京拾葉集の 自营等店 文なり、例う下 お古今和歌集序 太系民任 るのろからうとうずれなるいがいた体をうをず ナースけるてのするの字ろの内的の一篇は世界力田もの 言治法的文 水水文本 七卷八本 1拾色和歌集序 三条通信 行為意因物的ななる人教はは 义子相迎卡 家。集の内 宇治的川北 向阿上人 津方周奉 作者不知 カーニ

半生日 一十三和生日部三 勇儀抄事 歌語序 博義序 卷之二 物語序 和歌色華集序 御養羅川歌合序 及為後成 九月十三夜前武衛泉事和歌事 十副抄序 韓古今和歌縣店 在京本家 我引明 右京冬良 龙五志葉 若永良基 思治病 殿上根合序、悦目批序 大幅川行幸和歌店人多家新劫機和歌集序及多家家 夫禄歌合亭 遠島御歌合序 子日行幸和歌亭 なるなん 九十四 我為四 なる事後 はの宝 小系忠親

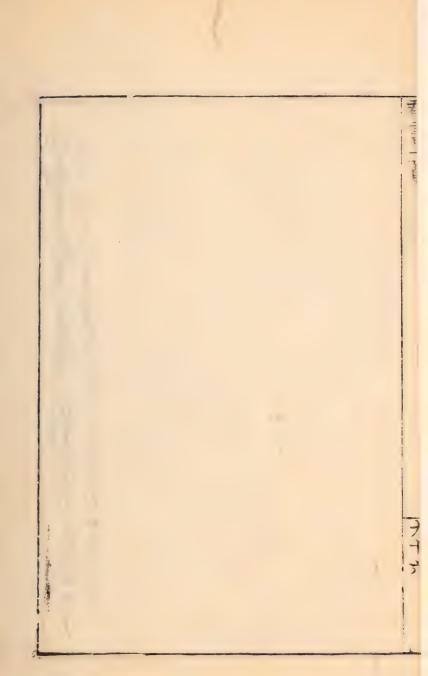
松田り の後月三日母 我時基 我宗長 伊勢 平康打 成京良基 古来国体抄改 益乳がな 高辛星 俊成九十一智記 野崎飛 記記記 行行行 ほぶ長 老條作~ 防佛化 **发系住成**教慈国 13 彩 量九病佐 任 13

ラード

年1000年11一和書部三 神佛がの類がそろ和文がらとからでする。 な て類 草木子 要語 一巻 建凉性 建凉性 一本 東京地 東京地 しいきるで らずり長さしてするろれるのろとは思りくちはり、八代本のようけてしずられてきる私」しょうちくのすり 其書名以子子 明和二年十二月刻 でいましてととかく 幸 催馬樂 土佐日記 古今集 其餘後語類 り接名して各 **筑前中納言秀於戲別** 一卷 刊上 一卷 同上

て住き物語像氏物語がのでのとくれるけまる漢文の例とちょうとうで其时代の人がりといって、本作の例中古作の例 地ばの例とるを首は題言十條らと、古作の例中古作の例 地ばの例とる 華文童論 二卷 同上 君三三十日月 2月内傷災し版あて安小二年心内到 するでは、人の村と人のというないの人というとける壁をおのには、人の村と人のというないのはでもなるれていて大きりは、俗文を推文と得す、徐 慶芝の園文」とりて徐とし、名 華美の群めてはる俗言雅言の差美雅文的俗文章 論 二巻 同上 それいるはっていりの他文ー~ 君とりる 又母とする ましている 子のなり ないちょうない 体しまする 越の方系和何子

意はますよりとうけるかられているというと 7... 的中



五年日任了了一京八向一时的说明了一班文的一面上了 生山山一大儿如書部三 もっていいいちのかううしゃれのやしょういなから

老三十日与 まれたのがありいとあるらうりいするちののえめ なんのあくいかのうた人もはしろうし自るけまたのれたと と家れなりたくかいくとうしか書はいかくりた からししというかけはしくけるる書うしょうなしてよれ 左日記以門之自華本,故将軍舊物布世の至它中今分表了自小門為 スコ真字がましてく書うしみがあれなりのあるとうとは かからう八条殿へすりかっているとの方治之年の刊かいか 字換なっかのなるからかりそのよろうすをふれないない した、くろれかのろう園ですしくらしてこれかい今い絶の すいとらいっているというけらるもらり ぬうえくれ物はていれで貫きれ自ないをあついけっている マーまことふれでまして自るの人さ形を換されるえ あるいて今八加賀の家藏とり」定家でする自己のあるカス は世はまっかかけっきけとよううそのうれとけるとある ナーナーナ

军世日一九一和書部三 京一、清け高新手筆之本文以別本強其同異粗解釋之事,九例、京余通見友为相である。」所以此為大強其同異粗解釋之事,九例、京余通見友为相である。一年以此為機能,自 なさいいろうけいれてくくけるのでうからのれていける いろうくくのかはしいついのいかなるまうへいく からがりしてするかとろかとくらかはしくりから アカサイコニリが らくせしい本学のおとう~~~ このる場でくうけの記のけったいまいのながってせるいちつく

土佐日記有書 · 一日三一日三 夏文えているがかいちのととしいいのかからかんい からりれぬってはできりりかまなかのかもり

生まり一分一和書部三 其なる。時他りのくせるのううちょうとうとうとうとう す書るうかいるれずりからまたかりしゃりかったっとう らせれずつしてすのをちはいるしたちろけってないかろう ててくの信すとのの了すけるなる一ぬの作うなると きてめためれるくしょうけんかありしまかやしていかれ おりくるしている管神はしいかとしますしていた ひろうちめのだかいともから ○年代宣長もりするは度にしいつうのかしいやせるいろ の桂秋からうでもうち故まつちにりしてきなないとう いるかというけっているのたまからるころう

君言一時一 松島日記写本 きがきたくはるかられるかろうりんのりれとくって こうくなりましましてもとれてということはます めたりしてることすべてれりずのもあろうろはそん はか何るの心してくれるはをいしはしてもりしてろく いちしるれてるとうからんいっとうすかとしてそりもえて ともくだって せけんがすじくんしすいつかりしかんかっ いのできましろうかってかいまりけれていれる いんしてろくりとういろういろして

長明道の記した一巻 年 如一十三 和書部三 あいれずりりりくいずしいけましろのしけは快幸格達集 かっきからはかけりといっていかっかっているっとのいろう りっていくとうけるとのはりしてすれるしている うろうしせいれていれてもけれいろとうかいう くして えつしているいろうり

長明海道記一巻二本東総がりく長明の今かり載しれているという東総がりく長明の今かり載しれているという、東総がりく長明の今かり載しれているといる親の東総がりく長明の今かり載しれているというとはないは親のからは 一一一一一 了了人快来给事事一处了多人世上的中十七万日人解記行 一卷 源親行 一名名はの部行とは兼良公應にの乱物避く南都人物川の記。二卷一条禅阁兼良公 たりにきはのかりりまけるりのにく そくそのかれれれるというなりのはしてれてかった

○廣八微書記の分子がり山町九文明五年駿河よう、一廣日記写本一巻 宗長西國紀行写本 羊まれてかれ一和書部三 文と行すの大子语語でくれる准后道真の方化かりよや一名宗祖田國記一号一个印本五卷工からは你社員の原國報記。 必の派个川上後今義然の家、付り一が必廣はか了普光院義教公園士時後の歌のとけけ供奉ヤー今川範 けめたのにから 宗長法的改明十二年周防め山へ下了人のでかり つく写本

温泉遊草 深草之次 深草之次 無倉盛行のとと思代の変遷が感し事五山の表本教者記行 身近記行 君言一時 寛永し亥れて馬九大納言光廣へ関東下向のかの記く 人がたけてはそれでする一人が殊れれてしてからいえばらく年飲成の母がはらく海遊れてすしてります ようなかくこれを相府春めらけらのとろうけるとう いっちもらて 一卷 深草之改 烏九光廣卿

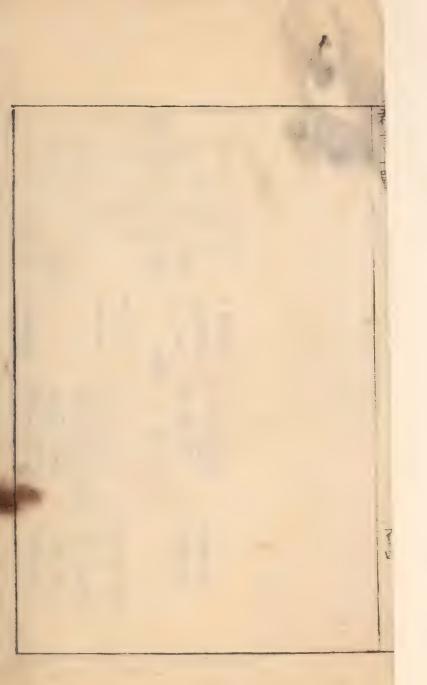
まの 電でするとう 半生三十九 和書部三 了ち出の後の記写本一卷 京保計五度成は一似字はかえり伊豆の、島できを京保計五度成は一似字はかえ日の富士山のけらしたの 喝 写本 二巻 似雲法師 西場成の早春からくるのとりる伊まのといううく まならっとかりとうかりのとけれれいすのあの すしてていまいくろうりする子秋のすのしの もなしりかいるけわりらう なつめてのらけらのとうくみなかって くれてれるしおますりつかいあすからのうとしてい 烏九光菜公

十月日十二年四月以上十一省度修学的的孙在传幸的记年九月日九年八月日年九月日十年四月时年九月日年九月日年九月日八年四月日等保八年十月日十年壬八月日年九月日八年四月日修学院御幸震記写本一卷 電心法皇 直ゆうると写本 コス アーー 日一 西福一個一て克りをからなの人の化かります 近京三年光学公園木下向の道のいたり春首し 明れれるのちは長きでれるのがりかってれるよう はしろうかでする 九すーのするちまかりくたっていいとけすけい はつりとういくしろつけれい 二卷本石宣言

年生了一七見 知書部三 記的の文列東西南北よからく和文は人物十二日林意行集 六卷 宮川 孝子 十つ行書 私然馬記 態はといのサイ 表赤水の異物の比り 東方 我宝長 小島のすらみ 二条良基公 でから くらく 禁此宗之 百百二

1和寺子な

學生了一个1一和書部三 京後 南遊詩 山崎五美 右京太天 加方繁你 え川一早~ 丹後海陸順遊日銀和宗之門北吟稿一半農的花 大京記行 詩仙林 (ra m 平鼓的柱 業務和尚 歌 整体



(Constant delighter, A.J. Series of Looks, A.31)

Places Hell.

the state of

.b.o rated

as of the special sea

.ve ni Jos s To Call

Author: 尾崎雅嘉 (Ozaki, Masayoshi, 1755-1827)

Title: 耄書一覧 三 (Gunsho ichiran, v.3; Review of Books, v.3)

Place: n.p.

Publisher: ?

Date: n.d.

lv. (double leaves)

Text in Japanese

V.3 of a set in 6v.



